(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2014 年 6 月 19 日(19.06.2014)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2014/091900 A1

(51) 国際特許分類:
A01K 23/00 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2013/081453

(22) 国際出願日: 2013 年 11 月 21 日(21.11.2013)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2012-272371 2012 年 12 月 13 日(13.12.2012) JP

(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(UNI-CHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 小松原　大介(KOMATSUBARA Daisuke); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７　ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: 岩田　哲幸，外(IWATA Tetsuyuki et al.); 〒4600003 愛知県名古屋市中区錦二丁目１９番１９号　広小路センタープレイス３階　池田・岩田国際特許事務所 Aichi (JP).

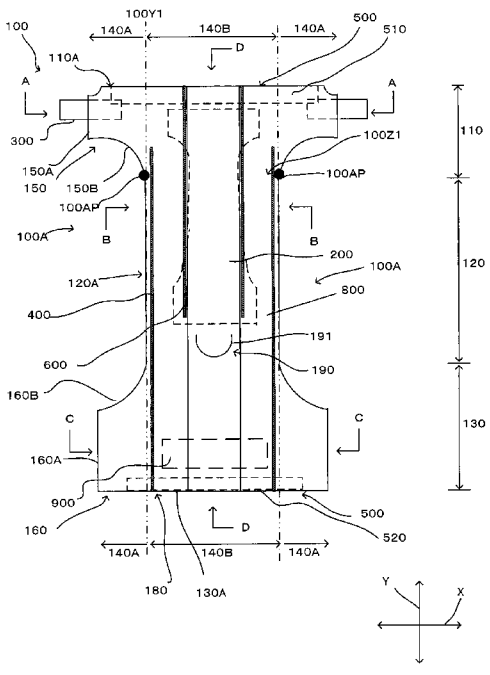
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

(54) **Title**: DISPOSABLE DIAPER FOR PETS

(54) 発明の名称 : ペット用使い捨ておむつ



(57) **Abstract**: [Problem] To provide a disposable diaper for pets that fits well around the waist of the pet. [Solution] A disposable diaper for pets, in which a fixed section in an attachment section overlaps with an expanding/contracting elastic member for the waist, said disposable diaper for pets having: a rear-side waist area (130); a stomach-side waist area (110); a crotch area (120); both end sections (130A, 110A) in the diaper longitudinal direction; both end sections (120A) in the diaper longitude-intersecting direction; a tail insertion opening (190); an absorbent core (200); an area (170) not having the absorbent core arranged therein; a flap section (150) provided in the stomach-side waist area and having an end section in the rear-side direction; an attachment section (300) having the fixed section (320) arranged in the flap section (150) and a free section (310) extending from the flap section (150); the expanding/contracting elastic member for the waist (520); and an attachment area (900) that receives the attachment section (300).

(57) 要約: 【課題】ペットの胴周りに対し良好にフィットするペット用使い捨ておむつを提供する。 【解決手段】 背側胴周り域１３０と、腹側胴周り域１１０と、股下域１２０と、おむつ長手方向上における両端部１３０Ａ、１１０Ａと、おむつ長手交差方向上における両端部１２０Ａと、尻尾挿通開口１９０と、吸収性コア２００と、吸収性コア非配置領域１７０と、前記腹側胴周り域に設けられるとともに前記背側方向に端部を有するフラップ部１５０と、該フラップ部１５０に配置される固定部３２０と、該フラップ部１５０から延出する自由部３１０とを有する止着部３００と、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５２０と、前記止着部３００を受ける止着領域９００とを有し、前記止着部の前記固定部と、前記胴周り用伸縮性弾性部材が重ねられるペット用使い捨ておむつ。

WO 2014/091900 A1

明　細　書

発明の名称 ： ペット用使い捨ておむつ

技術分野

[0001] 本発明は、ペット用使い捨ておむつに関する。

特に、ペットの胴周りに対するフィット性に優れたペット用使い捨ておむつに関する。

背景技術

[0002] 犬や猫に代表されるペットを、家屋内で飼育することは一般的である。このため、種々のペット用使い捨ておむつが販売されている。例えば、特開２００４－１５９５９１号に示される構造のペット用使い捨ておむつが提案されている。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２００４－１５９５９１号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 図２１～図２２により、特開２００４－１５９５９１号に記載されたペット用使い捨ておむつを説明する。図２１はペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図、図２２はペット用使い捨ておむつをペットに装着した状態の説明図である。

ペット用使い捨ておむつ１０００は、液透過性シート９９１０と、液抵抗性シート（図示せず）と、この液透過性シート９９１０と液抵抗性シートの間に配置された吸収性コア２０００とにより構成される。

液透過性シート９９１０は液透過性の不織布により形成される。液抵抗性シートは液不透過性プラスチックフィルムにより形成される。吸収性コア２０００は、パルプなどの吸液性繊維と、高吸収性ポリマーとの混合物により形成される。

[0005] ペット用使い捨ておむつ１０００は、腹側胴周り域１１１０と、背側胴周り域１１３０と、腹側胴周り域１１１０と背側胴周り域１１３０の間に位置する股下域１１２０を有する。

ペット用使い捨ておむつ１０００は、腹側胴周り域１１１０と股下域１１２０と背側胴周り域１１３０に連続されるおむつ長手方向を有する。また、おむつ長手方向と交差するおむつ長手交差方向を有する。

[0006] おむつ長手方向上において、腹側胴周り域１１１０には端部１１１０Ａが形成され、背側胴周り域１１３０には端部１１３０Ａが形成される。

腹側胴周り域１１１０には腹側フラップ１１５０が形成される。腹側フラップ１１５０は背側端部１１５０Ｂを有する。この背側端部１１５０Ｂは、腹側フラップ１１５０におけるおむつ長手交差方向の端部から、吸収性コア２０００の端部２２２０におけるおむつ長手交差方向上の位置にわたり連続して設けられる。

ペット用使い捨ておむつ１０００をペットに装着した場合、腹側フラップ１１５０はペットの脚Ａ１に対して比較的長い距離にて接する。

腹側フラップ１１５０には多数のフックを備えた止着部３０００が配置される。

[0007] 腹側胴周り域１１１０から股下域１１２０に亘る所定の領域内に、吸収性コア２０００が配置される。吸収性コア２０００が設けられていない股下域１１２０と背側胴周り域１１３０の所定位置に、尻尾挿通開口１１９０が設けられる。

背側胴周り域１１９０の所定位置にはターゲットテープからなる止着領域９０００が構成される。ペット用使い捨ておむつ１０００をペットに着用する場合、止着部３０００のフックを、止着領域９０００へ係合させる。

背側胴周り域１１３０には背側フラップ部１１６０が設けられる。

[0008] ペット用使い捨ておむつ１０００におけるおむつ長手交差方向上の端部付近には脚周り用伸縮性弾性部材４０００が配置される。この脚周り用伸縮性弾性部材４０００が収縮することにより、図２２に示す脚周りギャザー４４

１０が形成される。この脚周り用伸縮性弾性部材４０００はおむつ長手方向において、腹側胴周り域１１１０の一部から股下域１１２０に亘り配置される。この結果、脚周り用伸縮性弾性部材４０００の収縮力は、腹側胴周り域１１１０の端部１１１０Ａおよび背側胴周り域１１３０の端部１１３０Ａには影響を及ぼさない。

[0009] ペット用使い捨ておむつ１０００におけるおむつ長手交差方向上の端部から内側に亘り、防漏シート８０００が配置される。防漏シート８０００には防漏シート用伸縮性弾性部材６０００が配置される。この防漏シート用伸縮性弾性部材６０００が収縮することにより、図示しない防漏ギャザーと防漏壁が構成される。

なお、防漏シート用伸縮性弾性部材６０００の腹側胴周り域側の端部は、使い捨てペット用おむつ１０００の長手方向端部１１１０Ａまで達していない。また、防漏シート用伸縮性弾性部材６０００の背側端部は、尻尾挿通開口１１９０を超えて配置される。

[0010] ペット用使い捨ておむつ１０００をペットに装着する場合、背側胴周り域１１３０をペットの背にあて、股下域１１２０および腹側胴周り域１１１０をペットの股下および腹にあてる。この状態で、止着部３０００を止着領域９０００に固定する。

[0011] 一方、従来のペット用使い捨ておむつ１０００は、止着部３０００のおむつ長手交差方向の腹側胴周り域１１１０には収縮力を付与する構造が存在しなかった。よって、特に従来のペット用使い捨ておむつ１０００をペットαに装着した状態においては、ペットαに対して腹側胴周り域１１１０を良好にフィットさせることが困難であった。

[0012] 本発明は、このような点に鑑みて創案されたものであり、ペットの胴周りに対し良好にフィットするペット用使い捨ておむつを提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0013] 上記課題を解決するため、本発明に係るペット用使い捨ておむつの好まし

い形態によれば、背側胴周り域と、腹側胴周り域と、該背側胴周り域と腹側胴周り域の間に位置する股下域と、前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着されていない状態において、前記背側胴周り域と前記股下域と前記腹側胴周り域が連続する方向であるおむつ長手方向と、該おむつ長手方向と交差する方向であるおむつ長手交差方向と、前記おむつ長手方向上における両端部と、前記おむつ長手交差方向上における両端部と、前記おむつ長手方向の所定領域に設けられた尻尾挿通開口と、前記おむつ長手方向において前記尻尾開通口の一方側に形成され、前記股下域と前記腹側胴周り域の所定領域に配置される吸収性コアと、該吸収性コアが配置されていない領域である吸収性コア非配置領域と、前記腹側胴周り域に設けられるとともに前記背側方向に端部を有するフラップ部と、該フラップ部に配置される固定部と、該フラップ部から延出する自由部とを有する止着部と、前記腹側胴周り域に伸長状態にて配置される腹側胴周り用伸縮性弾性部材と、前記背側胴周り領域に設けられるとともに前記止着部を受ける止着領域と、を有する。

さらに、前記止着部の前記固定部と、前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材が重ねられる。

さらに、前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットへ装着する状態においては、前記背側胴周り域が前記ペットの背に密接されつつ、前記股下域および前記腹側胴周り域が前記ペットの股間乃至腹に被覆されるとともに、前記止着部が前記止着領域に止着される。

さらに、前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットが装着している状態においては、排泄時の前記吸収性コアの重量が前記止着部の長手方向で受けられる。

[0014] また本発明に係る解決手段の一態様として、前記止着部の自由部には複数のフックが設けられている。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材は、前記止着部の前記固定部よりもペット用使い捨ておむつにおける内側表面方向に配置されている。

発明の効果

[0015] 本発明では、止着部の固定部と、胴周り用伸縮性弾性部材が重ねられる。これにより、腹側胴周り域において収縮力を付与することができる。よって、ペット用使い捨ておむつは、ペットの胴周りに対し良好にフィットする。

図面の簡単な説明

[0016] [図1]本発明の第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図2]吸収コア非配置領域を示すペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図3]腹側フラップ部の構成を示す平面図である。

[図4]腹側フラップ部の好適な構造を特定するための測定に係る説明図である。

[図5]ペット用使い捨ておむつとペットの脚との関係を表わす説明図である。

[図6]防漏シート固定部を示すペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図7]図１におけるＡ－Ａ線断面図である。

[図8]図１におけるＢ－Ｂ線断面図である。

[図9]図１におけるＣ－Ｃ線断面図である。

[図10]伸縮性弾性部材の構成を表わす説明図である。

[図11]伸縮性弾性部材の作用を表わす説明図である。

[図12]図１におけるＤ－Ｄ線断面図に係る説明図である。

[図13]ペット用使い捨ておむつをペットに装着する際の背側胴周り域に係る説明図である。

[図14]ペット用使い捨ておむつをペットに装着する際の腹側胴周り域に係る説明図である。

[図15]ペット用使い捨ておむつをペットに装着した状態の説明図である。

[図16]本発明の第２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図17]本発明の第３の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図18]本発明の第４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図19]本発明の第５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図20]本発明の第６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図21]従来技術のペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

[図22]従来技術のペット用使い捨ておむつをペットに装着した状態の説明図である。

発明を実施するための最良の形態

[0017] （第１の実施形態）

以下に、本発明の第１の実施形態を図１～図１５により説明する。

[0018] 図１はペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。本実施の形態において「ペット」とは、脊椎動物（哺乳類、爬虫類、鳥類、両性類）や無脊椎動物を広く包含するが、典型的には猫、犬、ウサギ、ハムスター、馬、牛、豚、山羊といった愛玩動物がこれに該当する。本実施の形態において、「展開した状態」もしくは「展開状態」とは、ペットに装着されていない状態のペット用使い捨ておむつを解放し、伸縮性弾性部材の収縮力が発現していない状態を示す。

[0019] ペット用使い捨ておむつ１００は、腹側胴周り域１１０と、背側胴周り域１３０と、腹側胴周り域１１０と背側胴周り域１３０の間に配置される股下域１２０を有する。ペットがペット用使い捨ておむつ１００を着用した場合において、腹側胴周り域１１０はペットの腹に、背側胴周り域１３０はペットの背に、股下域１２０はペットの股下にそれぞれ当接される。

この腹側胴周り域１１０、背側胴周り域１３０、股下域１２０が、本発明に係る「背側胴周り域と、腹側胴周り域と、該背側胴周り域と腹側胴周り域

の間に位置する股下域」のそれぞれ一例である。

[0020] ペット用使い捨ておむつ１００は、図１に示される展開状態において、腹側胴周り域１１０と股下域１２０と腹側胴周り域１３０が連続する方向であるおむつ長手方向Ｙと、おむつ長手方向Ｙと交差する方向であるおむつ長手交差方向Ｘとを有する。本明細書において「交差する」とは、特に説明を行わない限り「直交する」ことを示す。

このおむつ長手方向Ｙと、おむつ長手交差方向Ｘとが、本発明に係る「前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着されていない状態において、前記背側胴周り域と前記股下域と前記腹側胴周り域が連続する方向であるおむつ長手方向と、該おむつ長手方向と交差する方向であるおむつ長手交差方向」の一例である。

[0021] ペット用使い捨ておむつ１００は、ペットに装着される側である内側表面１００Ｚ１と、この内側表面１００Ｚ１と反対側の表面である外側表面１００Ｚ２とを有する。

なお、本実施の形態において、内側表面１００Ｚ１をペット側表面、ペット装着面と記す場合がある。

[0022] ペット用使い捨ておむつ１００は、おむつ長手方向Ｙ上において、腹側胴周り域１１０に形成される端部１１０Ａと、背側胴周り域１３０に形成される端部１３０Ａを有する。

この端部１１０Ａと１３０Ａが、本発明に係る「前記おむつ長手方向上における両端部」の一例である。

[0023] ペット用使い捨ておむつ１００は、おむつ長手交差方向Ｘ上において一対の端部１００Ａを有する。端部１００Ａは、腹側フラップ部１５０におけるおむつ長手交差方向上の端部１５０Ａおよび背側端部１５０Ｂと、背側フラップ部１６０におけるおむつ長手交差方向上の端部１６０Ａおよび腹側端部１６０Ｂと、腹側フラップ部１５０の背側端部１５０Ｂと背側フラップ部１６０の腹側端部１６０Ｂとの間に位置する脚周り端部１２０Ａとに亘り連続される。

この端部１００Ａが本発明に係る「おむつ長手交差方向上における両端部」の一例である。

[0024] ペット用使い捨ておむつ１００は、おむつ長手方向Ｙの所定領域に尻尾挿通開口１９０を有する。尻尾挿通開口１９０は、内側表面１００Ｚ１と外側表面１００Ｚ２に亘り貫通する弧状の開口用切込み１９１により形成される。

なお、この第１の実施形態においては弧状の開口用切込み１９１により尻尾挿通開口１９０を形成したが、環状の切込みにより円形の開口を設けることもできる。

この尻尾挿通開口１９０が、本発明における「おむつ長手方向の所定領域に設けられた尻尾挿通開口」の一例である。

[0025] ペット用使い捨ておむつ１００は、おむつ長手方向Ｙに、尻尾挿通開口１９０の一方側に形成され、股下域１２０と腹側胴周り域１１０の所定領域に配置される吸収性コア２００を有する。吸収性コア２００は、腹側端部２１０と、背側端部２２０と、一対のおむつ長手交差方向側端部２３０とを有する。

吸収性コア２００は、粒子状や繊維状の高吸収性ポリマーとフラッフパルプとの混合物や、粒子状や繊維状の高吸収性ポリマーとフラッフパルプと熱可塑性剛性樹脂繊維との混合物により形成される。また、その型崩れや高吸収性ポリマーの脱落を防止するため、全体がティッシュペーパーや親水性繊維不織布等の透液性シートで被覆されることが好ましい。また、吸収性コア２００を、所定の厚みとすべく製造工程により圧縮することが好ましい。なお、高吸収性ポリマーは、合成ポリマー系、デンプン系、セルロース系などのものを適宜使用することができる。

この吸収性コア２００が、本発明に係る「おむつ長手方向において尻尾挿通開口の一方側に形成され、股下域と前記腹側胴周り域の所定領域に配置される吸収性コア」の一例である。

[0026] 図２に示す通り、ペット用使い捨ておむつ１００において、吸収性コア２

００が配置されていない領域は吸収性コア非配置領域１７０とされる。

この吸収性コア非配置領域１７０が、本発明に係る「該吸収性コアが配置されていない領域である吸収性コア非配置領域」の一例である。

吸収性コア非配置領域１７０において、吸収性コア２００の腹側端部２１０と、背側端部２２０と、ペット用使い捨ておむつ１００の背側端部１３０Ａと隣り合うそれぞれの領域は、後に説明する起立部７００を構成するための起立領域とされる。起立領域の内、吸収性コア２００の腹側端部２１０と隣り合う領域は、腹側起立領域１７１とされる。また、吸収性コア２００の背側端部２２０と隣り合う領域は、股下起立領域１７３とされる。また、ペット用使い捨ておむつ１００の背側端部１３０Ａと隣り合う領域は、背側起立領域１７２とされる。

[0027] なお、ペット用使い捨ておむつ１００の設計次第では、この吸収性コア非配置領域１７０の内、特に起立領域に吸収性コア２００の一部の構成が配置される場合がある。具体的には、ティッシュペーパーや、パルプ繊維もしくは高吸水性ポリマーの一部が配置される場合がある。そのような場合であっても、起立領域がその柔軟性を維持しており起立部７００を形成するのであれば、実質的には吸収性コア非配置領域１７０が形成されており、起立領域も同時に形成されているものとされる。

[0028] ペット用使い捨ておむつ１００は、腹側フラップ部１５０のおむつ長手交差方向上の両端部１５０Ａに、止着部３００を有する。

図３に示す通り、止着部３００は止着部長手方向３００Ｘと、止着部長手交差方向３００Ｙとを有する。止着部長手方向３００Ｘにおいては、止着部３００がペット用使い捨ておむつ１００に固定されている領域である固定部３２０と、止着領域９００に止着される自由部３１０とを有する。

この止着部３００が、本発明に係る「止着部」の一例である。

この固定部３２０が、本発明に係る「該フラップ部に配置される固定部」の一例である。

この自由部３１０が、本発明に係る「該フラップ部から延出する自由部」

の一例である。

[0029] 止着部３００には、ポリオレフィン系の熱可塑性合成繊維から形成された繊維不織布またはポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂から形成されたプラスチックフィルムが使用される。自由部３１０におけるおむつ内側表面１００Ｚ１側には、多数のフック（図示せず）が取り付けられている。フックは、ポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂から形成されている。なお、このフックは止着領域９００に止着するための構成であるが、止着領域９００の構造によっては他の構成を選択することができる。例えば、フックではなく粘着剤を使用することができる。

このフックが、本発明に係る「前記止着部の自由部には複数のフックが設けられている」の一例である。

[0030] ペット用使い捨ておむつ１００は、フラップ部１４０Ａを有する。フラップ部１４０Ａは、おむつ長手交差方向上の両端部１００Ａにおける腹側胴周り域１１０のおむつ長手交差方向に設けられた一対の腹側フラップ部１５０と、おむつ長手交差方向上の両端部１００Ａにおける背側胴周り域１３０のおむつ長手交差方向上に設けられた一対の背側フラップ部１６０とにより構成される。フラップ部１４０Ａは、ペット用使い捨ておむつ１００のおむつ長手交差方向上の端部１００Ａ同士を結んだおむつ長手交差方向Ｘ上における直線の内、最も短い箇所である端部１００Ａ上の点である最小幅点１００ＡＰを通過するおむつ長手方向上の仮想線１００Ｙ１により規定される。すなわちこの仮想線１００Ｙ１はフラップ境界線とされ、一対のフラップ境界線１００Ｙ１よりも外側の領域がフラップ部（腹側フラップ部１５０、背側フラップ部１６０）とされる。一方、一対のフラップ境界線１００Ｙ１同士の内側の領域が本体部１４０Ｂとされる。

[0031] 図３に示す通り、腹側フラップ部１５０においては、そのおむつ長手交差方向上の端部１５０Ａから止着部３００の自由端３１０が突出される。この端部１５０Ａと止着部３００の境界において、止着部３００における止着部長手交差方向３００Ｙを２分した点が止着部中間点３００Ｐ１とされる。

また、腹側フラップ部１５０の背側端部１５０Ｂは弧状であり、腹側フラップ部１５０のおむつ長手交差方向上の端部１５０Ａから脚周り端部１２０Ａにわたり連続する。

この腹側フラップ部１５０が、本発明に係る「前記腹側胴周り域に設けられるとともに前記背側方向に端部を有するフラップ部」の一例である。

[0032] 次に腹側フラップ部１５０として好適な構造を、図４～図５に基づき説明する。

図４において、おむつ長手方向中心線１００Ｙ２は、ペット用使い捨ておむつ１００におけるおむつ長手交差方向Ｘの中心を通過する。つまり、おむつ長手方向中心線１００Ｙ２は、ペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部１１０Ａを２分した位置である腹側端部中心点１１０ＡＰと、背側端部１３０Ａを２分した位置である背側中心点１３０ＡＰとを結ぶ線上に位置する。

さらに、おむつ長手方向中心線１００Ｙ２上における、腹側端部１１０Ａと背側端部１３０Ａとを結んだ長さがおむつ長手方向長さＤ１とされる。

さらに、おむつ長手方向長さＤ１を２分した位置が、おむつ中心点１００Ｐとされる。

[0033] 本発明の発明者は、腹側フラップ１５０を構成するにあたり、止着部３００の止着部中心点３００Ｐ１とおむつ長手方向中心線１００Ｙ２とを結んだ直線と、腹側フラップ部１５０の背側端部１５０Ｂの形状との関係に着目し、鋭意検討を行った。

特に、止着部３００の止着部中心点３００Ｐ１からおむつ長手方向中心線１００Ｙ２に伸ばした直線の内、腹側フラップ部１５０の背側端部１５０Ｂを経由した最短の直線距離３００Ｌと、おむつ中心点１００Ｐとが交わる点である最短直線点３００Ｐ２との関係に着目した。

その結果、最短直線点３００Ｐ２が、おむつ中心点１００Ｐよりもペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部１１０Ａ方向にある場合、腹側フラップ１５０として好適な構成となることを見出した。

[0034] すなわち、最短直線点３００Ｐ２の位置は、腹側フラップ１５０の背側端

部１５０Ｂの形状と大きな関係がある。背側端部１５０Ｂは、前述の如く弧状とされ、フラップ部１５０の長手交差方向端部１５０Ａと、ペット用使い捨ておむつ１００の脚周り端部１２０Ａに亘り形成される。

この点、最短直線点３００Ｐがおむつ中心点よりも背側胴周り域１３０側に位置する場合を仮定する。この場合、腹側フラップ部１５０の背側端部１５０Ｂと脚周り端部１２０Ａとの接続位置は、本発明に係る構成よりも背側胴周り域１３０側となる。この結果、腹側フラップ部１５０の面積は大きくなる。よって、ペット用使い捨ておむつ１００をペットαに着用した場合、腹側フラップ部１５０がペットの脚Ａ１に接触する長さが長くなる。

一方、本発明に係る最短直線点３００Ｐ２の位置であると、図５に示す通り、腹側フラップ１５０の面積を小さくすることができ、腹側フラップ部１５０の背側端部１５０Ｂとペットの脚α１とが接触する長さを減ずることができる。

[0035] ペット用使い捨ておむつ１００は、様々な大きさのペットに対応し、様々な大きさのものが提供されている。ここで、ペットを犬または猫と限定する。この場合、最短直線点３００Ｐ２と、ペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部中心点１１０ＡＰとを結んだ距離である測定長さＤ２が１７０ｍｍ～２５０ｍｍとすると、いずれの大きさのペット用使い捨ておむつ１００であっても、好適な腹側フラップ部１５０とすることができる。

[0036] さらに、測定長さＤ２と、ペット用使い捨ておむつ１００のおむつ長手方向長さＤ１との関係についても検討を行った。この結果、おむつ長手方向長さＤ１に対する測定長さＤ２の割合が、４５．５％～５０．０％であると、いずれの大きさのペット用使い捨ておむつ１００であっても、好適な腹側フラップ部１５０とすることができる。

[0037] ペット用使い捨ておむつ１００は、止着領域９００を有する。止着領域９００は、止着部３００に着脱可能に止着される。

止着領域９００は、背側胴周り域１３０の外側表面１００Ｚ２に接着される。止着領域９００は、ポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂繊維から形成

された繊維不織布またはポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂から形成されたプラスチックフィルムに、ポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂からなる多数のループ（図示せず）を取り付けたターゲットテープにより構成される。一方、止着部３００の自由部３１０におけるフックの構成次第では、ターゲットテープを使用せずに、おむつ外側表面１００Ｚ２を構成する不織布に、直接的に止着部３００を止着する構成とすることができる。この場合、止着領域９００は、おむつ外側表面１００Ｚ２を構成する不織布における、止着部３００を止着し得る領域とされる。また、止着部３００の自由部３１０に粘着剤が使用された場合は、止着領域９００としてプラスチックフィルムが使用される。

この止着領域９００が、本発明における「前記背側胴周り領域に設けられるとともに前記止着部を受ける止着領域」の一例である。

[0038] ペット用使い捨ておむつ１００において、おむつ長手交差方向上の端部１００Ａと吸収性コア２００との間における吸収性コア非配置領域１７０の所定領域には、脚周り用伸縮性弾性部材４００が配置される。

この脚周り用伸縮性弾性部材４００は伸長状態にて配置される。一方、ペット用使い捨ておむつ１００を使用する場合、収縮して後述する脚周りギャザー４１０を形成する。

この脚周り用伸縮性弾性部材４００は、ペット用使い捨ておむつ１００の腹側胴周り域１１０の所定位置から背側端部１３０Ａに亘り、おむつ長手方向Ｙに沿って配置される。

[0039] ここで、ペット用使い捨ておむつ１００の「背側端部１３０Ａに亘り」の意味は、脚周り用伸縮性弾性部材４００が背側端部１３０Ａの末端まで連続的に存在することのみを指すものではない。すなわち、脚周り用伸縮性弾性部材４００が、背側端部１３０Ａの末端から距離を空けて存在していたとしても、その収縮力が背側端部１３０Ａに影響を及ぼし起立部７００を形成すればよい。

脚周り用弾性部材４００は、糸状の合成ゴムや天然ゴムにより構成される

。

[0040] ペット用使い捨ておむつ１００は、胴周り用伸縮性弾性部材５００を有する。この腰周り用伸縮性弾性部材５００は、おむつ長手方向上の端部１１０Ａと吸収性コア２００の腹側端部２１０との間における吸収性コア非配置領域１７０に配置された腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０と、おむつ長手方向上の端部１３０Ａと吸収性コア２００の背側端部２２０との間における吸収性コア非配置領域１７０に配置された背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０とにより構成される。

この腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０が、本発明に係る「前記腹側胴周り域に伸長状態にて配置される腹側胴周り用伸縮性弾性部材」の一例である。

胴周り用伸縮性弾性部材５００は伸長状態にて配置される。一方、ペット用使い捨ておむつ１００を使用する場合、収縮して胴周りギャザー５３０を形成する。

[0041] 背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０と脚周り用伸縮性弾性部材４００とは、重ねられて配置される。ここで、本実施の形態における「重ねる」の意味は、重ねられる構成同士が直接接していることのみを指すものではない。例えば、背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０と脚周り用伸縮性弾性部材４００が重ねられる場合にあっては、背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０と脚周り用伸縮性弾性部材４００とが直接接していない場合であっても、それぞれの収縮力が互いに影響を及ぼし、収縮力交差領域１８０を形成すればよい。

この「重ねる」が、本発明に係る「重ねられている」の一例である。

胴周り用弾性部材５００は、ウレタン製の発泡シート材により構成される。

なお、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０と、止着部３００の固定部３２０とは重ねられている。

この腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０と止着部３００との関係が、本発明に係る「前記止着部の前記固定部と、前記胴周り用伸縮性弾性部材が重ね

られる」の一例である。

この際、前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０は、止着部３００の固定部３２０よりもペット用使い捨ておむつ１００における内側表面１００Ｚ１方向に配置されている。この結果、止着部３００が、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０をペットαに押し当てることができるため、より胴周りをフィットさせることができる。また、腹側胴回り端部１１０Ａのめくれを防止することができる。

これが、本発明に係る「前記胴周り用伸縮性弾性部材は、前記止着部の前記固定部よりもペット用使い捨ておむつにおける内側表面方向に配置されている」の一例である。

[0042] ペット用使い捨ておむつ１００は、防漏シート８００を有する。

防漏シート８００には、防漏シート用伸縮性弾性部材６００が伸長状態にて配置されている。

防漏シート８００は、ペット用使い捨ておむつ１００の長手交差方向上の端部１００Ａからペット用使い捨ておむつ１００の本体部１４０Ｂに亘る所定の領域に配置される。

防漏シート用伸縮性弾性部材６００は、防漏シート８００の内側端部の折り返し部８１０により生ずる空間内に配置され、おむつ長手方向Ｙに沿って延在される。

[0043] 図６に示す通り、防漏シート８００は、接着剤（図示しない）によりペット用使い捨ておむつ１００の他の構成部品（液透過性シート９１０、液抵抗性シート９２０、外層シート９３０）と固定される固定部８３０を形成する。図６において、斜線で示した領域が固定部８３０である。

一方、吸収性コア２００のおむつ長手交差方向Ｘ側の端部２３０と重なるおむつ長手方向Ｙ上の領域には固定部８３０が形成されていない。この固定部８３０が形成されていない領域は、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により起立され、後述する防漏壁８２０が形成される。また、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により、防漏シート６００には防漏ギャザ

ー８４０が形成される。

[0044] なお防漏シート用伸縮性弾性部材６００は、この固定部８３０が存在しない領域（防漏壁８２０が形成される領域）におけるおむつ長手方向Ｙのすべての長さに存在する必要はない。例えば、防漏壁８２０が形成される領域におけるおむつ長手方向Ｙの一部の領域にのみ、防漏シート用伸縮性弾性部材６００を配置すれば足りる。すなわち、防漏壁８２０が形成される領域のおむつ長手方向Ｙ上の固定部８３０において、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮力が影響すれば足りるものである。ここで、防漏壁８２０が形成される領域のおむつ長手方向Ｙ上の固定部８３０を収縮力固定部６１０とする。

[0045] 収縮力固定部６１０は、腹側収縮力固定部６２０と、背側収縮力固定部６３０とを有する。

この内、背側収縮力固定部６３０は、吸収性コア２００の背側端部２２０と尻尾挿通開口１９０との間に設けられる。すなわち、この構成によって、防漏シート用伸縮性弾性部材の収縮により吸収性コア２００の背側端部２２０と尻尾挿通開口１９０間の吸収性コア非配置領域１７０が起立され、起立部７００が形成される。

また、腹側収縮力固定部６２０の腹側端部は、前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０と重ねられる。そして防漏シート用伸縮性弾性部材６００の腹側端部は、腹側収縮力固定部の腹側端部にまで配置されている。よって、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の腹側端部は、前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０と重ねられる。

この構成によって、後述する通り、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により吸収性コア２００の腹側端部２１０とペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部１１０Ａとの間の吸収性コア非配置領域１７０が起立され、起立部７００が形成される。

[0046] ペット用使い捨ておむつ１００は、液透過性シート９１０と、液吸収性コア２００と、液抵抗性シート９２０と、外層シート９３０と、防漏シート８

００とにより構成される。

図７～９に示す通り、液透過性シート９１０は、ペット用使い捨ておむつ１００の内側表面１００Ｚ１側に配置される。また、吸収性コア２００は、液透過性シート９１０と液抵抗性シート９２０との間に配置される。液抵抗性シート９２０の外側表面１００Ｚ２側には外層シート９３０が配置される。防漏シート８００は、おむつ長手交差方向Ｘにおいて液透過性シート９１０と、液抵抗性シート９２０と、外層シート９３０とに亘り配置される。この結果、腹側フラップ部１５０および背側フラップ部１６０は、防漏シート８００と外層シート９３０とにより構成される。

脚周り用伸縮性弾性部材４００は、防漏シート８００と液抵抗性シート９２０との間に配置される。

防漏シート用伸縮性弾性部材６００は、防漏シート８００における端部に形成された折り返し部８１０内の空間に配置される。

[0047] 図７に示す通り、止着部３００は、防漏シート８００と外層シート９３０との間に配置される。

図７および８に示す通り、固定部８３０が形成されていない防漏シート８００は、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の伸縮により起立され、防漏壁８２０を形成する。この際、防漏シート８００には多数の皺である防漏ギャザー８４０が形成される。

図９に示す通り、止着領域９００は外層シート９３０の外側表面１００Ｚ２方向に設けられる。

図示しないが、胴周り用伸縮性弾性部材５００は、液透過性シート９１０と液抵抗性シート９２０との間に配置される。

[0048] 液透過性シート９１０、液抵抗性シート９２０、外層シート９３０、防漏シート８００は、不織布にて形成される。この不織布としては、スパンレース、ニードルパンチ、メルトブローン、サーマルボンド、スパンボンド、ケミカルボンドの各製法により製造されたものを選択することができる。

図示しないが、液透過性シート９１０、液抵抗性シート９２０、外層シー

ト９３０、防漏シート８００同士の固定や、脚周り用伸縮性弾性部材４００、防漏シート用弾性伸縮性弾性部材６００、胴周り用伸縮性弾性部材５００の固定にあっては、接着剤が使用される。接着剤は、ホットメルト型接着剤を使用することが好ましい。その他の接着剤として、アクリル系接着剤や、ゴム系接着剤を使用することもできる。

接着剤は、スパイラル状、波状、ドット状、縞状のうち、いずれかの態様で塗布されることが好ましい。

[0049] 次に、脚周り用伸縮性弾性部材４００と、防漏シート用伸縮性弾性部材６００と、胴周り用伸縮性弾性部材５００とにおける収縮力の関係を、図１０～図１１に基づき説明する。なお、図１０～図１１において、説明の便宜上、腹側フラップ部１５０および背側フラップ部１６０を省略し、本体部１４０Ｂのみを図示する。

図１０に示す通り、脚周り用伸縮性弾性部材４００および防漏シート用伸縮性弾性部材６００は、そのおむつ長手方向Ｙ上の端部方向から内側方向へ向かい収縮する。すなわち、脚周り用伸縮性弾性部材４００および防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮力Ｆ１はおむつ長手方向Ｙに沿って内側方向へ向かい働く。

胴周り用伸縮性弾性部材５００は、そのおむつ長手交差方向Ｘ上の端部方向から内側方向へ向かい収縮する。すなわち、胴周り用伸縮性弾性部材５００の収縮力Ｆ２は、おむつ長手交差方向Ｘに沿って内側方向へ向かい働く。

収縮力交差領域１８０は、脚周り用伸縮性弾性部材４００および防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮力Ｆ１と、胴周り用伸縮性弾性部材５００の収縮力Ｆ２が交差する領域である。よって、収縮力交差領域１８０の収縮力Ｆ３は、おむつ長手方向Ｙとおむつ長手交差方向Ｘの双方に交差する方向に沿って、内側方向へ向かい働く。

収縮力交差領域１８０は、ペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部１１０Ａ方向に形成された第１の収縮力交差領域１８１と、背側端部１３０Ａ方向に形成された第２の収縮力交差領域１８２とからなる。

[0050] この結果、図１１に示す通り、ペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部１１０Ａおよび背側端部１３０Ａには、胴周り用伸縮性弾性部材５００の収縮力Ｆ２により、ペット用使い捨ておむつ１００の内側表面Ａ１から外側表面Ｚ２方向に向かい突出する第１の湾曲部５４０が形成される。

第１の湾曲部５４０は、ペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部１１０Ａに形成された第１の腹側湾曲部５４１と、背側端部１３０Ａにされた第１の背側湾曲部５４２とを有する。

[0051] また、収縮力交差領域１８０には、収縮力交差領域１８０にかかる収縮力Ｆ３により、ペット用使い捨ておむつ１００の内側表面１００Ｚ１へ向かい湾曲した第２の湾曲部１８３が形成される。

第２の湾曲部１８３は、第１の収縮力交差領域１８１に形成された第２の腹側湾曲部１８４と、第２の収縮力交差領域１８２に形成された第２の背側湾曲部１８５とを有する。

[0052] 次に図１２に基づき、脚周り用伸縮性弾性部材４００と、防漏シート用伸縮性弾性部材６００が収縮した状態につき説明する。図１２は、図１におけるＤ－Ｄ線断面図であるが、説明の便宜上、液透過性シート９１０、液抵抗性シート９２０、外層シート９３０の一部および吸収性コア２００、止着領域９００の全部の構成を省略する。

図１２において、脚周り用伸縮性弾性部材４００と、防漏シート用伸縮性弾性部材６００とは収縮した状態である。この結果、脚周り用伸縮性弾性部材４００と、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮力に影響され起立部７００が形成される。すなわち、吸収性コア非配置領域１７０における腹側起立領域１７１、背側起立領域１７２、股下起立領域１７３、がそれぞれ起立され、起立部７００が形成される。

起立部７００は、腹側起立部７１０と、背側起立部７２０と、股下起立部７３０とからなる。

なお、本発明において起立部７００を形成する「起立する」とは、単一種類の伸縮性弾性部材による収縮力、もしくは複数の伸縮性弾性部材のそれぞれ

の収縮力が合わせられた収縮力によって、吸収性コア非配置領域１７０が変形されることを示すものである。

[0053] 腹側起立部１７１は、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により腹側起立領域１７１が起立され、形成される。

[0054] 背側起立部７２０は、脚周り用伸縮性弾性部材４００の収縮により、背側起立領域１７２が起立され形成される。

[0055] また、防漏シート用伸縮性弾性部材６００は、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０に重ねられる。脚周り用伸縮性弾性部材４００は、背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０に重ねられる。

胴周り伸縮性弾性部材５００は、おむつ長手交差方向上に所定の長さで配置されている。そのため、腹側起立部７１０は腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０を、背側起立部７２０は背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０をそれぞれ起立させる。よって、腹側起立領域１７１と背側起立領域１７２とは、それぞれ安定した起立状態とされる。すなわち、この腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０と、背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０は、起立部７００の起立状態を確実なものとするための起立シート７４０とされる。

[0056] 股下起立部７３０は、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により収縮力固定部６１０の背側固定部１７３が移動されることに伴い、股下起立領域１７３が起立されることにより形成される。

なお、上述の如く、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により、防漏壁８２０が形成される。この防漏壁８２０と、腹側起立部７１０と、股下起立部７３０と、吸収性コア（図１２では図示せず）に囲まれた空間が、排泄物収容空間８５０とされる。

なお腹側起立部７１０の起立状態によっては、防漏壁８２０と、股下起立部７３０と、吸収性コア（図１２では図示せず）に囲まれた空間を、排泄物収容空間８５０とすることもできる。

なお、この排泄物収容空間８５０には、吸尿パッドを配置することができる。

吸尿パッドは、使い捨ておむつに配置される構造として周知のものを使用することができる。

[0057] ペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部１１０Ａから尻尾挿通口１９０に亘る領域には、脚周り用伸縮性弾性部材４００と防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮力Ｆ１により、ペット用使い捨ておむつ１００の内側表面１００Ｚ１から外側表面１００Ｚ２方向に向かい突出する第３の湾曲部１８６が形成される。

ペット用使い捨ておむつ１００の尻尾挿通口１９０から背側端部１３０Ａに亘る領域には、主に脚周り用伸縮性弾性部材４００の収縮力Ｆ１により、ペット用使い捨ておむつ１００の内側表面１００Ｚ１から外側表面１００Ｚ２方向に向かい突出する第４の湾曲部１８７が形成される。

[0058] 次に、図１３～図１５に基づき、ペット用使い捨ておむつ１００の装着について説明する。使用者が、ペット用使い捨ておむつ１００をパッケージから取り出す。多くの場合、パッケージ内においてはペット用使い捨ておむつ１００の腹側フラップ部１５０と背側フラップ部１６０が内側方向に折り畳まれている。ペット用使い捨ておむつ１００自体も２つ折り、３つ折り等にて折り畳まれている。

使用者は使用に際し、この折り畳まれている構成を解放する。すると、脚周り用伸縮性弾性部材４００と、胴周り用弾性伸縮性弾性部材５００と、防漏シート伸縮性弾性部材６００とが収縮する。この結果、起立部７００として腹側起立部７１０と、背側起立部７２０と、股下起立部７３０が形成される。また、防漏壁８２０が形成される。さらに、第１の湾曲部５４０と、第２の湾曲部１８３と、第３の湾曲部１８６と、第４の湾曲部１８７が形成される。さらに、脚周りギャザー４１０と胴周りギャザー５３０と防漏ギャザー８４０が形成される。そして、ペット用使い捨ておむつ１００は脚周り用伸縮性弾性部材４００と、胴周り用弾性伸縮性弾性部材５００と、防漏シート伸縮性弾性部材６００の収縮により、形状が安定化される。

[0059] 次に使用者は、ペット用使い捨ておむつ１００の尻尾挿通開口１９０にペ

ットαの尻尾を挿通する。

次に使用者は、背側胴周り域１１０をペットαの背に密接させつつ、股下域１２０および腹側胴周り域１３０でペットαの股間乃至腹を被覆するとともに、止着部３００の自由部３１０を止着領域９００に止着する。これにより、ペットαへのペット用使い捨ておむつ１００の装着がなされる。

このペット用使い捨ておむつ１００のペットαの装着に係る事項が、本発明に係る　前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットへ装着する状態においては、前記背側胴周り域が前記ペットの背に密接されつつ、前記股下域および前記腹側胴周り域が前記ペットの股間乃至腹に被覆されるとともに、前記止着部が前記止着領域に止着され」の一例である。

[0060] ここで、使用者が背側胴周り域１１０をペットαの背に密接させる際のペット用使い捨て紙おむつ１００の状態を、図１３に基づき説明する。

背側端部１３０Ａには、おむつ外側表面１００Ｚ２方向に突出されている第１の湾曲部５４０が形成されている。また、第４の湾曲部１８７により背側端部１１０Ａから尻尾挿通口１９０に亘る領域の形状が安定している。また、第２の湾曲部１８３により、第２の収縮力交差領域１８２とともに背側フラップ部１６０がペット用使い捨ておむつ１００の内側表面１００Ｚ１方向に湾曲される。

すなわち、背側端部１３０Ａをペットαの背の湾曲に容易に配置することができる。

また、背側端部１３０Ａがめくれる可能性が低い。

[0061] ここで、使用者が、股下域１２０および腹側胴周り域１３０でペットαの股間乃至腹を被覆するとともに、止着部３００の自由部３１０を止着領域９００に止着する際のペット用使い捨ておむつ１００の状態を、図１４にて説明する。

腹側端部１１０Ａには、おむつ外側表面１００Ｚ２方向に突出されている第１の湾曲部５４０が形成されている。また、第３の湾曲部１８６により腹側端部１１０Ａから尻尾挿通口１９０に亘る領域の形状が安定している。

また、第２の湾曲部１８３により、第１の収縮力交差領域１８１とともに腹側フラップ部１５０がペット用使い捨ておむつ１００の内側方向１００Ｚ１に湾曲される。一方、腹側フラップ部１５０は止着部３００を有しているため、腹側フラップ部１５０は、本体部１４０Ｂとの境界部分よりも、長手交差方向側端部１５０Ｂの方が重い。よって、腹側フラップ部１５０における本体１４０Ｂとの境界部分は第２の湾曲部１８３とともに内側方向１００Ｚ１へ向けて湾曲する。一方、腹側フラップ部１５０における長手交差方向側端部１５０Ａは、その自重により外側方向１００Ｚ２へ向けて湾曲する。この結果、止着部３００は真下に垂れ下がらない状態で腹側フラップ部１５０に支持される。

すなわち、使用者は、腹側端部１１０Ａをペットαの腹の湾曲に容易に配置することができる。

また、腹側端部１１０Ａがめくれる可能性が低い。

また、使用者は止着部３００を容易に把持しやすい。

さらに、止着部３００を使用者が止着領域９００へ向けて移動させる際、第１の収縮力交差領域１８０の影響を受ける。よって、使用者が、止着部３００をどのような位置に移動させても収縮力が働く。この結果、使用者は容易に止着部３００を止着領域９００の所望の位置に移動することができる。

[0062] また、止着部３００の固定部３２０は、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０と重ねられている。よって、特にペット用使い捨ておむつ１００の腹側端部１１０Ａを、長い距離に亘りペットαの腹へ密着させることができる。このため、ペット用使い捨ておむつ１００とペットαとの間に隙間が生じにくく、漏れを防止することが可能となる。

また、止着部３００の自由部３１０を操作した際に、直接的に腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０を伸縮させることができる。よって、使用者が止着部３００の自由端３１０を操作した際においては、腹側胴周り域用伸縮性弾性部材５１０の伸縮状況が直接的に指先に伝わる。よって、使用者にとって使い勝手が良いペット用使い捨ておむつ１００となる。

[0063] 図１５は、ペット用使い捨ておむつ１００をペットαに着用した状態を示す図である。

ペット用使い捨ておむつ１００をペットに装着した後でも、脚周り用伸縮性弾性部材４００と、胴周り用弾性伸縮性弾性部材５００と、防漏シート伸縮性弾性部材６００との収縮状態は継続する。この結果、起立部７００として形成された腹側起立部７１０と、背側起立部７２０と、股下起立部７３０はその起立状態を継続する。また、防漏壁８２０の形成状態は継続する。さらに、第１の湾曲部５４０と、第２の湾曲部１８３と、第３の湾曲部１８６と、第４の湾曲部１８７の湾曲状態は継続する。さらに、脚周りギャザー４１０と胴周りギャザー５３０と防漏ギャザー８４０の形成状態は継続する。

[0064] ペットαが排泄を行った場合、排泄物収容空間８５０内に排泄物が保持される。排泄物が尿である場合は、吸収性コア２００に吸収される。排泄物が便の場合は、便の一部が吸収性コア２００に吸収され、残りの便が排泄物収容空間８５０内に保持される。

排泄物がいずれの場合であっても、吸収性コア２００の重量は、止着部３００の自由部３１０における止着部長手方向３００Ｘで受けられる。

これが、本発明に係る「前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットが装着している状態においては、排泄時の前記吸収性コアの重量が前記止着部の長手方向で受けられ」の一例である。

[0065] ペットαに着用されたペット用使い捨ておむつ１００を取り外す場合には、係止領域９００から係止部３００を取り外す。そして、尻尾挿通開口１９０からペット用使い捨ておむつ１００を引き抜く。そして、ペット用使い捨ておむつ１００を廃棄する。

この内、係止領域９００から係止部３００を取り外し、尻尾挿通開口１９０からペット用使い捨ておむつ１００を引き抜く工程において、腹側端部１３０Ａは、ペットαの斜め

下側方向に向けられる。この場合であっても、腹側起立部７１０により、便が転落する可能性を減少させることができる。

[0066] 以下、図１６～図２０に基づき、本発明に係る第２の実施形態～第６の実施形態につき説明する。なお、第２の実施形態～第６の実施形態の説明において、上記第１の実施形態と同様の構成を有する構成要素は、その説明、図面符号などを省略する。

[0067] （第２の実施形態）

本発明に係る第２の実施形態を、図１６に基づき説明する。第２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０１は、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、脚周り用伸縮性弾性部材を有さないものである。一方、防漏シート用伸縮性弾性部材６０１が、ペット用使い捨ておむつ１０１の腹側端部から背側端部に亘り配置されている。この際、防漏シートの固定部において、腹側固定部および背側固定部は、それぞれペット用使い捨ておむつ１０１の腹側端部および背側端部に形成されている。また、防漏シート用伸縮性弾性部材６０１は胴周り用伸縮性弾性部材の内、腹側胴周り用伸縮性弾性部材と背側胴周り用弾性部材のそれぞれと重ねられている。

この第２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０１と、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００とを比較する。第２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０１は、防漏シート用伸縮性弾性部材６０１により、起立部７００として腹側起立部７１０と背側起立部７２０と、防漏壁８２０と、防漏ギャザー８４０と、第３の湾曲部１８６と、第４の湾曲部１８７が形成される。

胴周り伸縮性弾性部材として、腹側胴周り用伸縮性弾性部材により第１の腹側湾曲部５４１が、背側胴周り用伸縮性弾性部材により第１の背側湾曲部５４２がそれぞれ形成される。

防漏シート用伸縮性弾性部材６０１の収縮力と、腹側胴周り用伸縮性弾性部材の収縮力により第１の収縮力交差領域１８１が形成され、第２の腹側湾曲部１８４が形成される。

防漏シート用伸縮性弾性部材６０１の収縮力と、背側胴周り用伸縮性弾性部材の収縮力により第２の収縮力交差領域１８２が形成され、第２の背側湾

曲部１８５が形成される。

すなわち、第２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０１においては、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、股下側起立部７３０と、脚周りギャザー４１０が形成されない。

よって、この第２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０１は、上述した第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００が奏する作用および効果の内、脚周りギャザー４１０と、股下側起立部７３０とが奏する以外の作用および効果を奏する。

さらに、この第２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０１にあっては、脚周り用伸縮性弾性部材が形成されていないため、ペット用使い捨ておむつ１０１の長手交差方向上の端部を、吸収性コアに近づけることができる。この結果、ペット用使い捨ておむつ１０１において、ペットの脚周りに接触する部分をより減少させることができる。

また、脚周りを形成するシートが無いため、ペット用使い捨ておむつを装着した際に、脚周りをすっきりさせることができる。

[0068] （第３の実施形態）

本発明に係る第３の実施形態を、図１７に基づき説明する。第３の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０２は、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、脚周り用伸縮性弾性部材４０１が腹側胴周り域と背側胴周り域に配置されていないものである。また、防漏シート用弾性伸縮性弾性部材の収縮力は、ペット用使い捨ておむつ１０２の腹側端部には影響を及ぼさないものである。

この第３の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０２と、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００とを比較する。第３の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０２は、脚周り用伸縮性弾性部材４０１が配置された領域にのみ脚周りギャザー４１０が形成される。また、起立部７００の内の腹側起立部７１０と背側起立部７２０が形成されない。第２の湾曲部１８３の内の第２の腹側湾曲部１８４と第２の背側湾曲部１８５とが形成

されない。第４の湾曲部１８７は、脚周り用伸縮性弾性部材４０１が配置されている領域にのみ形成される。

一方、起立部７００として、股下起立部７３０が形成される。また、防漏壁８２０が形成される。また、第１の湾曲部５４０として第１の腹側湾曲部５４１と第１の背側湾曲部１８５と、第３の湾曲部１８６と、第４の湾曲部１８７の一部とが形成される。脚周りギャザー４１０の一部と、防漏ギャザー８４０が形成される。

よって、この第３の実施形態のペット用使い捨ておむつ１０２は、上述した第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００が奏する作用および効果の内、股下起立部７３０と、防漏壁８２０と、第１の腹側湾曲部５４１と、第１の背側湾曲部１８５と、第３の湾曲部１８６と、第４の湾曲部１８７の一部と、脚周りギャザー４１０の一部と、防漏ギャザー８４０に基づく作用、効果を奏する。

さらに、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１１が係止部３０１と重なっている。よって、ペット用使い捨ておむつ１０６を装着するにあたり、腹側胴周り域をペットの腹に当接した場合、係止部３０１が腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１１の収縮力の影響を受け、おむつ内面方向へ湾曲する。よって、使用者が止着部３０１を把持しやすくなる。

[0069] （第４の実施形態）

本発明に係る第４の実施形態を、図１８に基づき説明する。第４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０３は、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、脚周り用伸縮性弾性部材４０２がペット用使い捨ておむつ１０３の腹側胴周り域および背側胴周り域に形成されていないものである。一方、防漏シート用伸縮性弾性部材６０３が、ペット用使い捨ておむつ１０３の腹側端部から背側端部に亘り配置されている。この際、防漏シートの固定部において、腹側固定部および背側固定部は、それぞれペット用使い捨ておむつ１０３の腹側端部および背側端部に形成されている。また、防漏シート用伸縮性弾性部材６０３は胴周り用伸縮性弾性部材の内、

腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１２と背側胴周り用弾性部材のそれぞれと重ねられている。また、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１２は、係止部３０２と重ねられている。

この第４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０３と、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００とを比較する。第４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０３は、防漏シート用伸縮性弾性部材６０３により、起立部７００として腹側起立部７１０と背側起立部７２０と、防漏壁８２０と、防漏ギャザー８４０と、第３の湾曲部１８６と、第４の湾曲部１８７が形成される。

胴周り伸縮性弾性部材として、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１２により第１の腹側湾曲部５４１が、背側胴周り用伸縮性弾性部材により第１の背側湾曲部５４２がそれぞれ形成される。

防漏シート用伸縮性弾性部材６０３の収縮力と、腹側胴周り用伸縮性弾性部材の収縮力により第１の収縮力交差領域１８１が形成され、第２の腹側湾曲部１８４が形成される。

防漏シート用伸縮性弾性部材６０３の収縮力と、背側胴周り用伸縮性弾性部材の収縮力により第２の収縮力交差領域１８２が形成され、第２の背側湾曲部１８５が形成される。

すなわち、第４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０３においては、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、股下側起立部７３０と、脚周りギャザー４１０の一部が形成されない。

よって、この第４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０３は、上述した第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００が奏する作用および効果の内、脚周りギャザー４１０の全部と、股下側起立部７３０とが奏する以外の作用および効果を奏する。

さらに、腹側領域および背側領域に胴周り用伸縮性弾性部材を有さないことにより、ペットの胴周りに沿わせて、止着部材を係合させることができる。

また、吸収性コアにおけるおむつ長手方向の両端部にポケットを形成することできる。

さらに、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１２が係止部３０２と重なっている。よって、ペット用使い捨ておむつ１０３を装着するにあたり、腹側胴周り域をペットの腹に当接した場合、係止部３０２が腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１２の収縮力の影響を受け、おむつ内面方向へ湾曲する。よって、使用者が止着部３０２を把持しやすくなる。

[0070]（第５の実施形態）

本発明に係る第５の実施形態を、図１９に基づき説明する。第５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０４は、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、防漏シート用伸縮性弾性部材６０４が、ペット用使い捨ておむつ１０４の腹側端部から背側端部に亘り配置されている。この際、防漏シートの固定部において、腹側固定部および背側固定部は、それぞれペット用使い捨ておむつ１０４の腹側端部および背側端部に形成されている。また、防漏シート用伸縮性弾性部材６０４は胴周り用伸縮性弾性部材の内、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１３と背側胴周り用弾性部材のそれぞれと重ねられている。また、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１３は、係止部３０３と重ねられている。

この第５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０４と、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００とを比較する。第５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０４は、脚周り用伸縮性弾性部材４０３と防漏シート用伸縮性弾性部材６０４とにより、起立部７００として腹側起立部７１０と背側起立部７２０と、脚周りギャザー４１０と、防漏壁８２０と、防漏ギャザー８４０と、第３の湾曲部１８６と、第４の湾曲部１８７が形成される。

胴周り伸縮性弾性部材として、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１３により第１の腹側湾曲部５４１が、背側胴周り用伸縮性弾性部材により第１の背側湾曲部５４２がそれぞれ形成される。

第１の収縮交差領域１８１としては、脚周り用伸縮性弾性部材４０３の収縮力と腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１３の収縮力の交差によるものと、防漏シート用伸縮性弾性部材６０４の収縮力と腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１３の収縮力によるものとの２つの構成が形成される。よって、第２の腹側湾曲部１８４としても、この２つの第１の収縮力交差領域１８１に伴い２つの構成が形成される。

第２の収縮交差領域１８２としては、脚周り用伸縮性弾性部材４０３の収縮力と背側胴周り用伸縮性弾性部材の収縮力の交差によるものと、防漏シート用伸縮性弾性部材６０４の収縮力と背側胴周り用伸縮性弾性部材収縮力によるものとの２つの構成が形成される。よって、第２の背側湾曲部１８５としても、この２つの第２の収縮力交差領域１８２に伴い２つの構成が形成される。

すなわち、第５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０４においては、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、股下側起立部７３０が形成されない。

よって、この第５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０４は、上述した第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００が奏する作用および効果の内、股下側起立部７３０が奏する以外の作用および効果を奏する。

さらに、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１３が係止部３０３と重なっている。よって、ペット用使い捨ておむつ１０４を装着するにあたり、腹側胴周り域をペットの腹に当接した場合、係止部３０３が腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１３の収縮力の影響を受け、おむつ内面方向へ湾曲する。よって、使用者が止着部３０３を把持しやすくなる。

また、おむつ長手方向全体に収縮力が働くため、排泄物の漏れを生じにくい。よって、特に寝たきり状態のペットに適したものである。

[0071] （第６の実施形態）

本発明に係る第６の実施形態を、図２０に基づき説明する。第６の実施形

態に係るペット用使い捨ておむつ１０５は、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、脚周り用伸縮性弾性部材４０４が背側胴周り域に形成されていない。さらに、防漏シート用伸縮性弾性部材６０５が、ペット用使い捨ておむつ１０５の腹側端部にまで形成されている。この際、防漏シートの固定部において、腹側固定部はペット用使い捨ておむつ１０５の腹側端部に形成されている。また、防漏シート用伸縮性弾性部材６０５は胴周り用伸縮性弾性部材の内、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４と重ねられている。また、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４は、係止部３０４と重ねられている。

この第６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０５と、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００とを比較する。第６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０５は、脚周り用伸縮性弾性部材４０４と防漏シート用伸縮性弾性部材６０５とにより、起立部７００として腹側起立部７１０と股下側起立部７３０と、脚周りギャザー４１０の一部と、防漏壁８２０と、防漏ギャザー８４０と、第３の湾曲部１８６と、第４の湾曲部１８７の一部が形成される。

胴周り伸縮性弾性部材として、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４により第１の腹側湾曲部５４１が形成される。

第１の収縮交差領域１８１としては、脚周り用伸縮性弾性部材４０４の収縮力と腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４の収縮力の交差によるものと、防漏シート用伸縮性弾性部材６０５の収縮力と腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４の収縮力によるものとの２つの構成が形成される。よって、第２の腹側湾曲部１８４としても、この２つの第１の収縮力交差領域１８１に伴い２つの構成が形成される。

すなわち、第６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０５においては、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００に比して、背側起立部７２０と、脚周りギャザー４１０の一部と、第１の背側湾曲部５４１と、第２の背側湾曲部５４２と、第４の湾曲部１８７の一部とが構成されない

。

よって、この第６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０５は、上述した第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１００が奏する作用および効果の内、背側起立部７２０と、脚周りギャザー４１０の全部と、第１の背側湾曲部５４１と、第２の背側湾曲部５４２と、第４の湾曲部１８７の全部が奏する以外の作用および効果を奏する。

腹側領域にのみ収縮力が強く働く構成であり、吸収性コアの腹側領域方向にポケットを形成しやすい、よって、雄用のペット用使い捨ておむつとして好適である。

さらに、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４が係止部３０４と重なっている。よって、ペット用使い捨ておむつ１０５を装着するにあたり、腹側胴周り域をペットの腹に当接した場合、係止部３０４が腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４の収縮力の影響を受け、おむつ内面方向へ湾曲する。よって、使用者が止着部３０４を把持しやすくなる。

[0072] なお、本発明に係るペット用使い捨ておむつの構成は上述した構造に限らないものである。また、第１～第６の実施形態に係る構成を適宜組み合わせることも可能である。

[0073] （実施の形態と本発明の各構成要素の対応について）

ペット用使い捨ておむつ１００、１０１、１０２、１０３、１０４、１０５は、本発明に係る「ペット用使い捨ておむつ」の一例である。背側胴周り域１３０は、本発明に係る「背側胴周り域」の一例である。腹側胴周り域１１０は、本発明に係る「腹側胴周り域」の一例である。股下域１２０は、本発明に係る「股下域」の一例である。おむつ長手方向Ｙは、本発明に係る「おむつ長手方向」の一例である。おむつ長手交差方向Ｘは、本発明に係る「おむつ長手交差方向」の一例である。端部１１０Ａおよび端部１３０Ａは、本発明に係る「おむつ長手方向上における両端部」の一例である。端部１００Ａは、本発明に係る「おむつ長手交差方向上における両端部」の一例である。尻尾挿通開口１９０は、本発明に係る「尻尾挿通開口」の一例である。

吸収性コア２００は、本発明に係る「吸収性コア」の一例である。吸収性コア非配置領域１７０は、本発明に係る「吸収性コア非配置領域」の一例である。腹側フラップ部１５０は、本発明に係る「フラップ部」の一例である。固定部３２０は、本発明に係る「固定部」の一例である。自由部３１０は、本発明に係る「自由部」の一例である。止着部３００、３０１、３０２、３０３、３０４は、本発明に係る「止着部」の一例である。腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１０、５１１、５１２、５１３、５１４は、本発明に係る「腹側胴周り用伸縮性弾性部材」の一例である。止着領域９００は、本発明に係る「止着領域」の一例である。脚周り用伸縮性弾性部材４００、４０１、４０２、４０３、４０４または防漏シート用伸縮性弾性部材６００、６０１、６０２、６０３、６０４、６０５は、本発明に係る「おむつ長手方向伸縮性弾性部材」の一例である。第１の収縮力交差領域１８１は、本発明に係る「第１の収縮力交差領域１８１」の一例である。背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０は、本発明に係る「背側胴周り用伸縮性弾性部材５２０」の一例である。第２の伸縮力交差領域１８２は、本発明に係る「第２の伸縮力交差領域」の一例である。脚周り用伸縮性弾性部材４００、４０１、４０２、４０３、４０４は、本発明に係る「脚周り用伸縮性弾性部材」の一例である。脚周りギャザー４１０は、本発明に係る「脚周りギャザー」の一例である。防漏シート８００は、本発明に係る「防漏シート」の一例である。防漏シート用伸縮性弾性部材６００、６０１、６０２、６０３、６０４、６０５は、本発明に係る「防漏シート用伸縮性弾性部材」の一例である。防漏ギャザー８４０は、本発明に係る「防漏ギャザー」の一例である。第１の湾曲部５４０は、本発明に係る「第１の湾曲部」の一例である。第２の湾曲部１８３は、本発明に係る「第２の湾曲部」の一例である。

[0074] 以上の本発明の特質に鑑み、以下の各種の構成態様が構築できる。

（態様１）

ペット用使い捨ておむつであって、

背側胴周り域と、腹側胴周り域と、該背側胴周り域と腹側胴周り域の間に

位置する股下域と、

前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着されていない状態において、前記背側胴周り域と前記股下域と前記腹側胴周り域が連続する方向であるおむつ長手方向と、該おむつ長手方向と交差する方向であるおむつ長手交差方向と、

前記おむつ長手方向上における両端部と、前記おむつ長手交差方向上における両端部と、

前記おむつ長手方向の所定領域に設けられた尻尾挿通開口と、

前記おむつ長手方向において前記尻尾開通口の一方側に形成され、前記股下域と前記腹側胴周り域の所定領域に配置される吸収性コアと、

該吸収性コアが配置されていない領域である吸収性コア非配置領域と、

前記腹側胴周り域に設けられるとともに前記背側方向に端部を有するフラップ部と、

該フラップ部に配置される固定部と、該フラップ部から延出する自由部とを有する止着部と、

前記腹側胴周り域に伸長状態にて配置される腹側胴周り用伸縮性弾性部材と、

前記背側胴周り領域に設けられるとともに前記止着部を受ける止着領域と、を有し、

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットへ装着する状態においては、前記背側胴周り域が前記ペットの背に密接されつつ、前記股下域および前記腹側胴周り域が前記ペットの股間乃至腹に被覆されるとともに、前記止着部が前記止着領域に止着され、

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットが装着している状態においては、排泄時の前記吸収性コアの重量が前記止着部の長手方向で受けられ、

前記止着部の前記固定部と、前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材が重ねられることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様２）

態様１に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記止着部の自由部には複数のフックが設けられていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様３）

態様１に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記止着部の自由部には粘着剤が設けられていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様４）

態様１～３までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記おむつ長手方向に伸長状態にて配置されたおむつ長手方向伸縮性弾性部材を有し、

前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材の伸縮力と、前記おむつ長手方向伸縮性弾性部材の伸縮力が交差する第１の収縮力交差領域を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様５）

態様４に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材と、前記おむつ長手方向伸縮性弾性部材が重ねられていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様６）

態様４または５のいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記背側胴周り域に背側胴周り用伸縮性弾性部材が伸長状態にて配置されており、

前記背側胴周り用伸縮性弾性部材の伸縮力と、前記おむつ長手方向伸縮性弾性部材の伸縮力が交差する第２の伸縮力交差領域を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様７）

態様６に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記背側胴周り用伸縮性弾性部材と、前記おむつ長手方向伸縮性弾性部材が重ねられていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様８）

態様４～７までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記おむつ長手方向伸縮性弾性部材は、前記吸収性コアと前記おむつ長手交差方向上の端部との間におけるおむつ長手方向の所定領域に伸長状態にて配置された脚周り用伸縮性弾性部材であることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様９）

態様８に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記脚周り用伸縮性弾性部材の収縮により脚周りギャザーが形成されることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１０）

態様４～７までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記おむつ長手方向に配置される防漏シートを有し、

前記おむつ長手方向伸縮性弾性部材は、前記防漏シートの所定領域に伸長状態にて配置される防漏シート用伸縮性弾性部材であることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１１）

態様１０に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記防漏シート用伸縮性弾性部材の収縮により防漏ギャザーが形成されることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１２）

態様４～１１までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記おむつ長手方向上の端部には前記ペット用使い捨ておむつ装着時における外側方向に湾曲した第１の湾曲部が形成され、

前記収縮力交差領域には前記ペット用使い捨ておむつ装着時における内側方向に湾曲した第２の湾曲部が形成されることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１３）

態様４～１２までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記収縮力交差領域は、前記腹側胴周り域に形成されることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１４）

態様４～１２までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記収縮力交差領域は、前記背側胴周り域に形成されることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１５）

態様４～１２までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記収縮力交差領域は、前記腹側胴周り域に形成された第１の収縮力交差領域と、前記背側胴周り域に形成された第２の収縮力交差領域とにより構成されることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１６）

態様４～１５までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットに装着する状態においては、すでに前記収縮力交差領域が形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１７）

態様４～１６までのいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットが装着している状態においては、前記収縮力交差領域が継続して形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

（態様１８）

態様１～１７のいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記胴周り用伸縮性弾性部材は、前記止着部の前記固定部よりもペット用使い捨ておむつにおける内側表面方向に配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ

符号の説明

[0075] １００、１０１、１０２、１０３、１０４、１０５、１０００　ペット用使い捨ておむつ

１００Ａ　おむつ長手交差方向上の端部

１００Ｐ　おむつ中心点

１００Ｙ１　フラップ境界線

１００Ｙ２　おむつ長手方向中心線

１００Ｚ１　内側表面

１００Ｚ２　外側表面

１１０、１１１０　腹側胴周り域

１１０Ａ、１１１０Ａ　腹側端部

１１０ＡＰ　腹側端部中心点

１２０、１１２０　股下域

１２０Ａ　脚周り端部

１３０、１１３０　背側胴周り域

１３０Ａ、１１３０Ａ　背側端部

１３０ＡＰ　背側端部中心点

１４０Ａ　フラップ部

１４０Ｂ　本体部

１５０、１１５０　腹側フラップ部

１５０Ａ　おむつ長手方向交差方向上端部

１５０Ｂ、１１５０Ｂ　背側端部

１６０、１１６０　背側フラップ部

１７０　吸収性コア非配置領域

１７１　腹側起立領域

１７２　背側起立領域

１７３　股下起立領域

１８０　収縮力交差領域

１８１　第１の収縮力交差領域

１８２　第２の収縮力交差領域

１８３　第２の湾曲部

１８４　第２の腹側湾曲部

１８５　第２の背側湾曲部

１９０、１１９０　尻尾挿通開口

１９１　開口用切込み

２００、２０００　吸収性コア

２１０　腹側端部

２２０　背側端部

２３０　おむつ長手交差方向側端部

３００、３０１、３０２、３０３、３０４、３０００　止着部

３１０　自由部

３２０　固定部

３００Ｐ１　止着部中間点

３００Ｐ２　最短直線点

３００Ｌ　最短直線距離

３００Ｘ　止着部長手方向

３００Ｙ　止着部長手交差方向

４００、４０１、４０２、４０３、４０４　脚周り用伸縮性弾性部材

４１０、４４１０　脚周りギャザー

４２０　第４の湾曲部

５００　胴周り用伸縮性弾性部材

５１０、５１１、５１２、５１３、５１４　腹側胴周り用伸縮性弾性部材

５２０　背側胴周り用伸縮性弾性部材

５３０　胴周りギャザー

５４０　第１の湾曲部

５４１　第１の腹側湾曲部

５４２　第１の背側湾曲部

６００、６０１、６０２、６０３，６０４、６０５、６０００　防漏シート用伸縮性弾性部材

６１０　収縮力固定部

６２０　腹側収縮力固定部

６３０　背側収縮力固定部

６４０　第３の湾曲部

７００　起立部

７１０　腹側起立部

７２０　背側起立部

７３０　股下側起立部

７４０　起立シート

８００、８０００　防漏シート

８１０　折り返し部

８２０　防漏壁

８３０　防漏シート固定部

８４０　防漏ギャザー

８５０　排泄物収容空間

９００、９０００　止着領域

９１０　液透過性シート

９２０　液抵抗性シート

９３０　外層シート

Ｄ１　おむつ長手方向長さ

Ｄ２　測定長さ

Ｆ１　脚周り用伸縮性弾性部材もしくは防漏シート用伸縮性弾性部材の収縮力

Ｆ２　胴周り用伸縮性弾性部材の収縮力

Ｆ３　収縮力交差領域にかかる収縮力

Ｘ　おむつ長手交差方向

Ｙ　おむつ長手方向

α　ペット

α１　ペットの脚

α２　ペットの背

α３　ペットの腹

Ｘ　おむつ長手交差方向

Ｙ　おむつ長手方向

請求の範囲

[請求項1] ペット用使い捨ておむつであって、

背側胴周り域と、腹側胴周り域と、該背側胴周り域と腹側胴周り域の間に位置する股下域と、

前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着されていない状態において、前記背側胴周り域と前記股下域と前記腹側胴周り域が連続する方向であるおむつ長手方向と、該おむつ長手方向と交差する方向であるおむつ長手交差方向と、

前記おむつ長手方向上における両端部と、前記おむつ長手交差方向上における両端部と、

前記おむつ長手方向の所定領域に設けられた尻尾挿通開口と、

前記おむつ長手方向において前記尻尾開通口の一方側に形成され、前記股下域と前記腹側胴周り域の所定領域に配置される吸収性コアと、

該吸収性コアが配置されていない領域である吸収性コア非配置領域と、

前記腹側胴周り域に設けられるとともに前記背側方向に端部を有するフラップ部と、

該フラップ部に配置される固定部と、該フラップ部から延出する自由部とを有する止着部と、

前記腹側胴周り域に伸長状態にて配置される腹側胴周り用伸縮性弾性部材と、

前記背側胴周り領域に設けられるとともに前記止着部を受ける止着領域と、を有し、

前記止着部の前記固定部と、前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材とは重ねられており、

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットへ装着する状態においては、前記背側胴周り域が前記ペットの背に密接されつつ、前記股下域

および前記腹側胴周り域が前記ペットの股間乃至腹に被覆されるとともに、前記止着部が前記止着領域に止着され、

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットが装着している状態においては、排泄時の前記吸収性コアの重量が前記止着部の長手方向で受けられることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

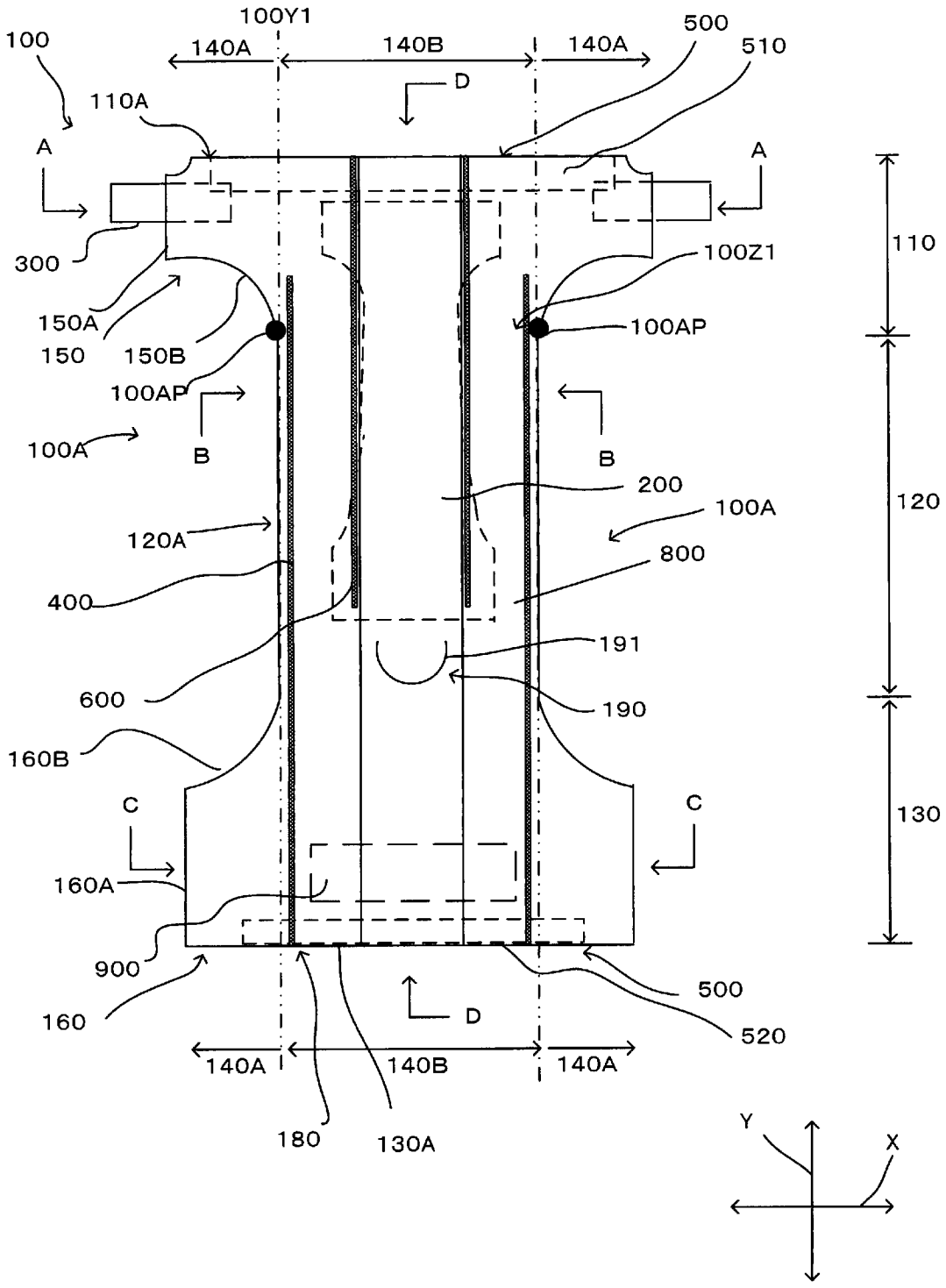
[請求項2] 請求項１に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記止着部の自由部には複数のフックが設けられていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

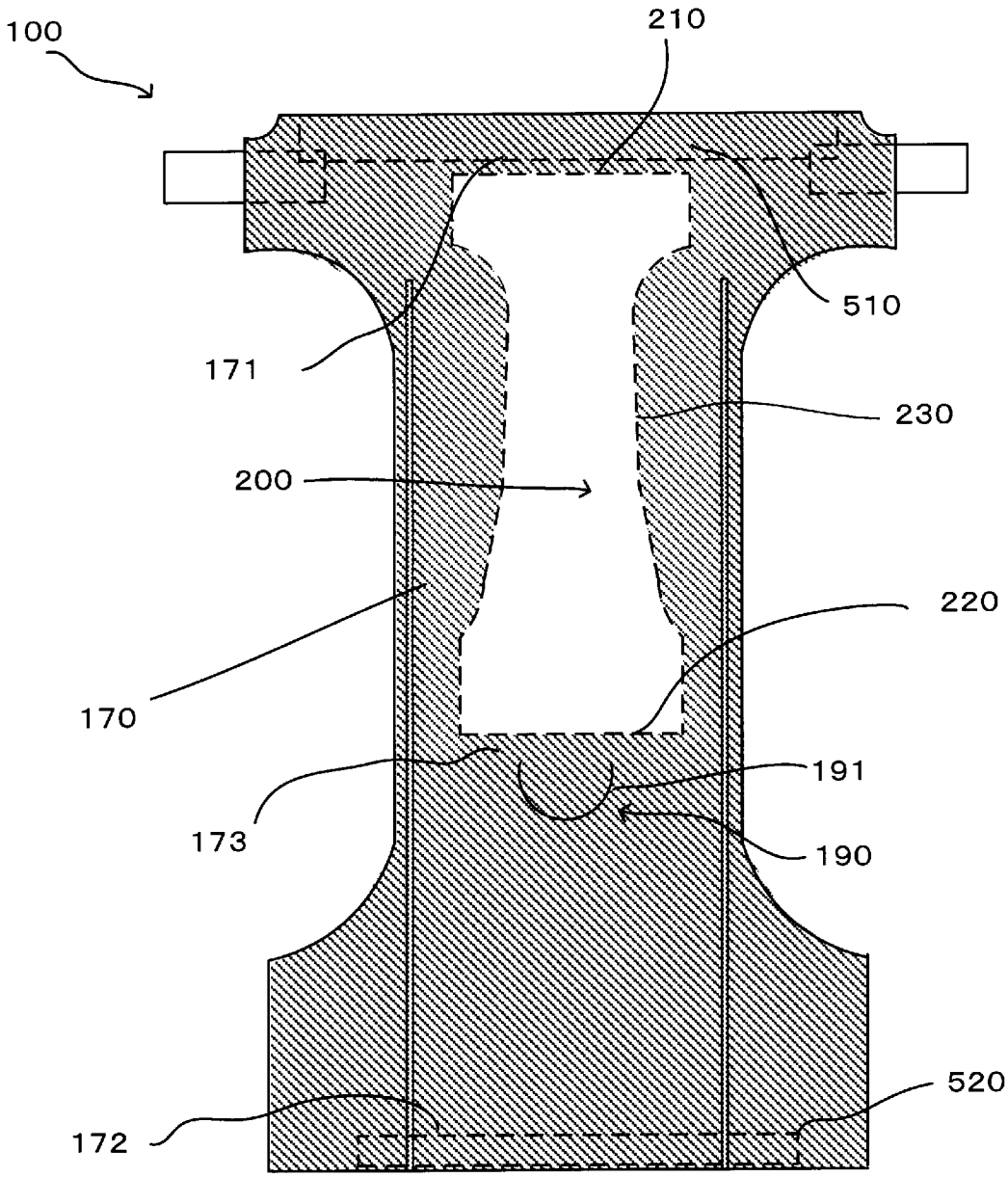
[請求項3] 請求項１または２のいずれか１項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記腹側胴周り用伸縮性弾性部材は、前記止着部の前記固定部よりもペット用使い捨ておむつにおける内側表面方向に配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ

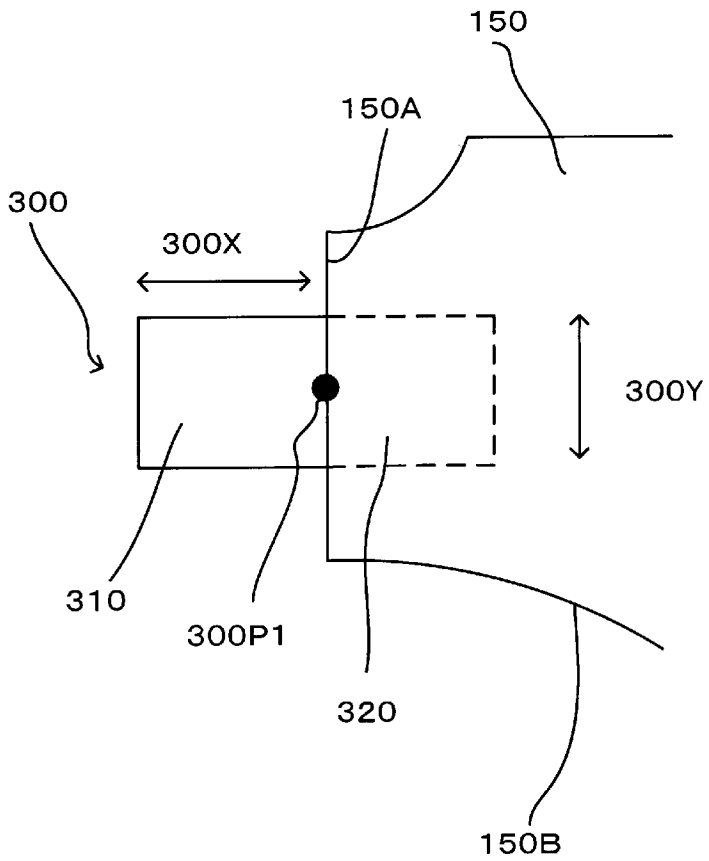
[図1]


100Y1
100
140A
140B
140A
500
510
D
110A
A
A
300
100Z1
150A
150
150B
100AP
100AP
B
B
100A
200
100A
120A
800
400
191
600
190
160B
C
C
160A
900
160
500
520
D
140A
140B
140A
180
130A
110
120
130
Y
X

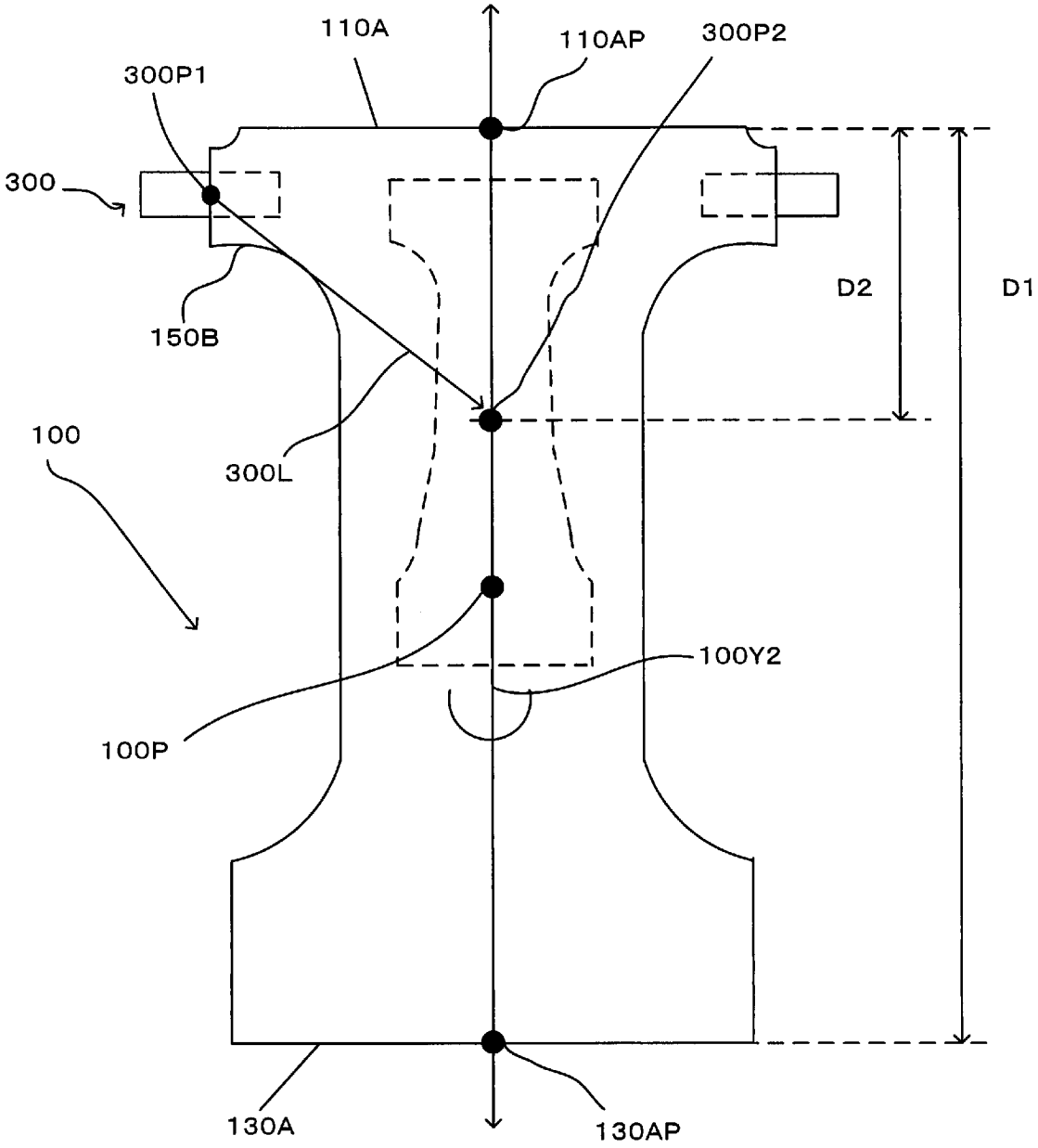
[図2]



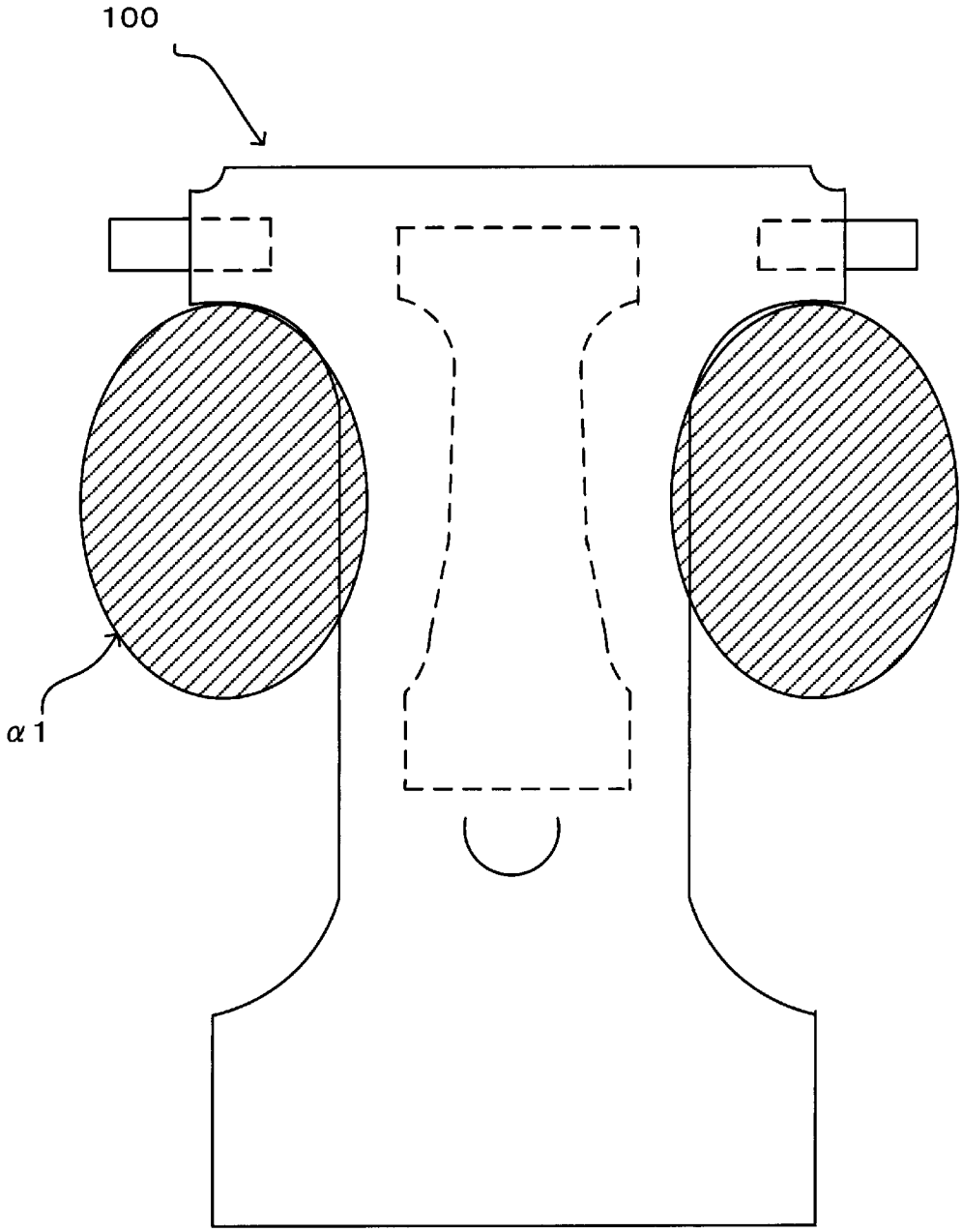
[図3]



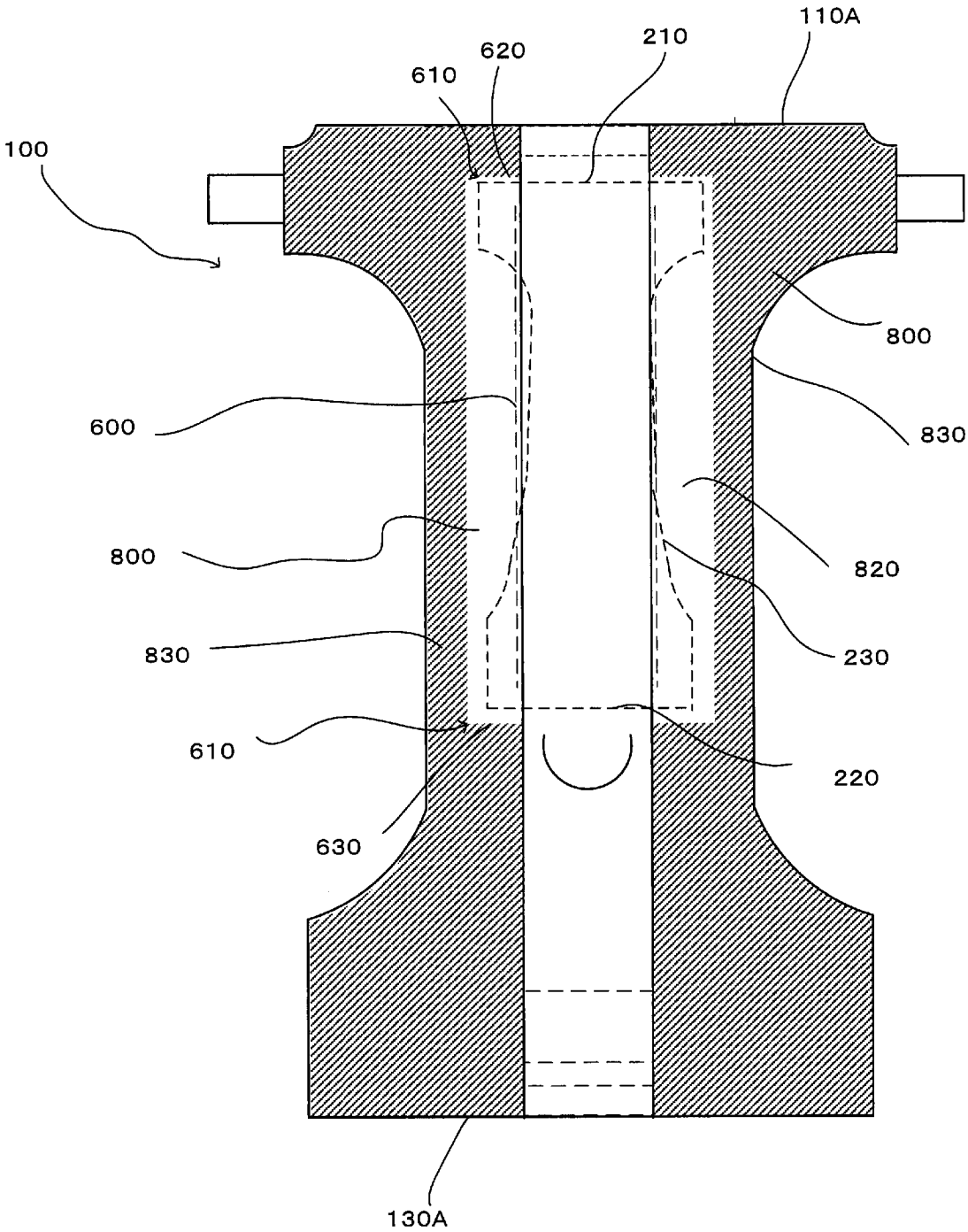
[図4]


110A
110AP
300P2
300P1
300
150B
D2
D1
100
300L
100Y2
100P
130A
130AP

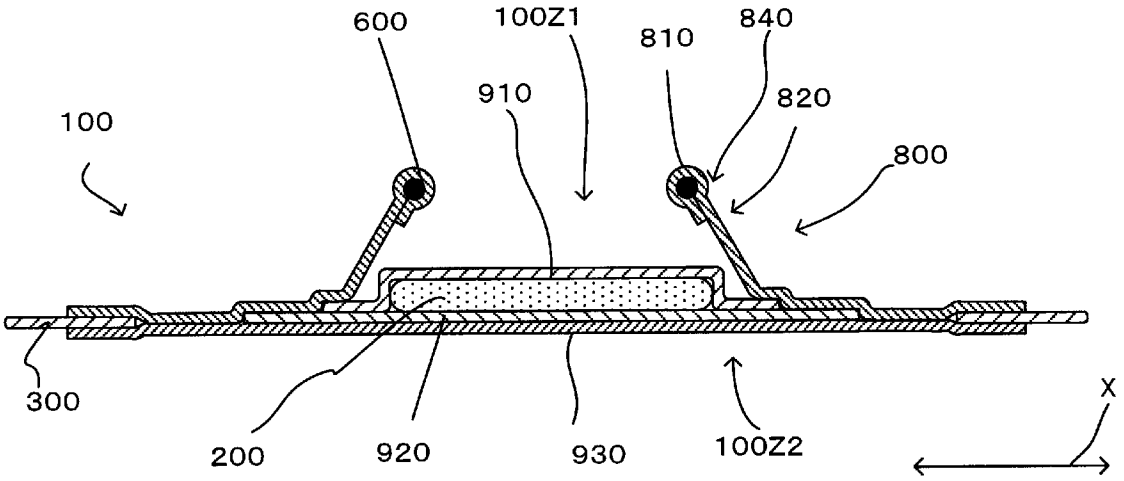
[図5]



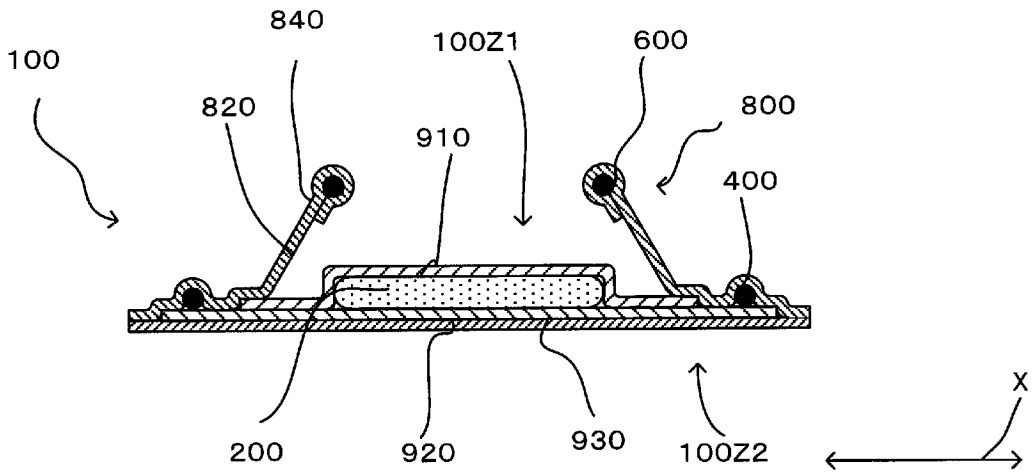
[図6]


110A
620
210
610
100
800
600
830
800
820
830
230
610
220
630
130A

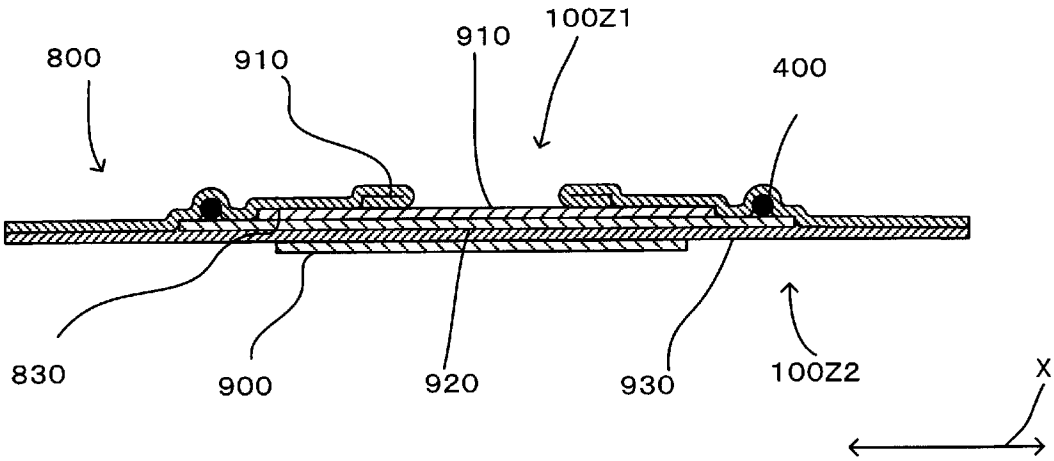
[図7]


600
100Z1
810
840
910
820
100
800
300
200
920
930
100Z2
X

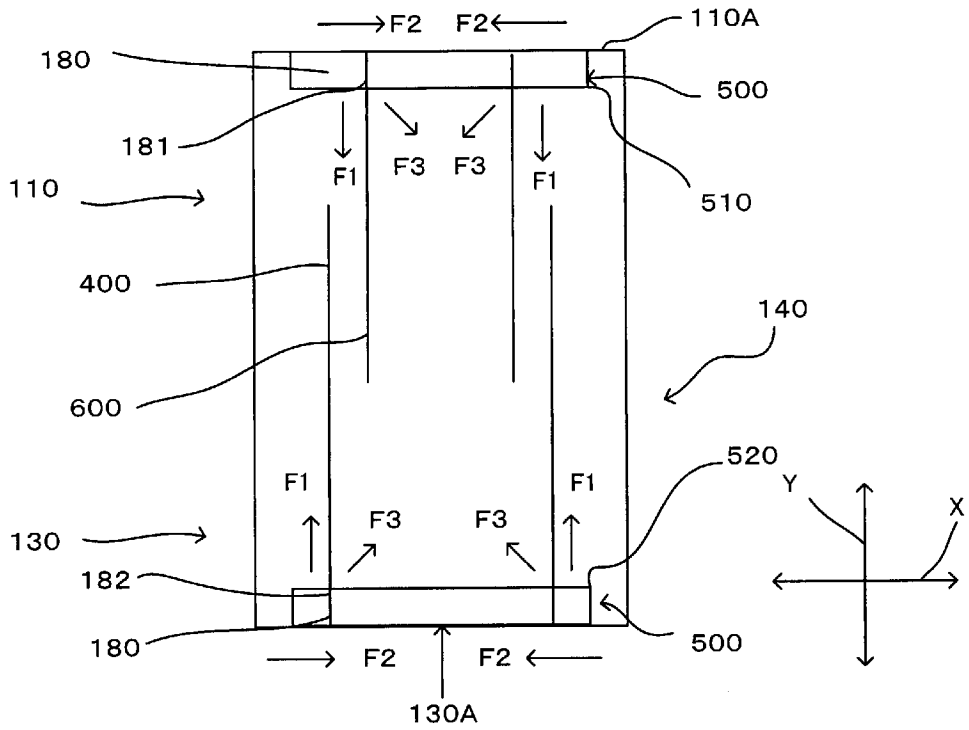
[図8]


840
100Z1
600
100
820
800
910
400
200
920
930
100Z2
X

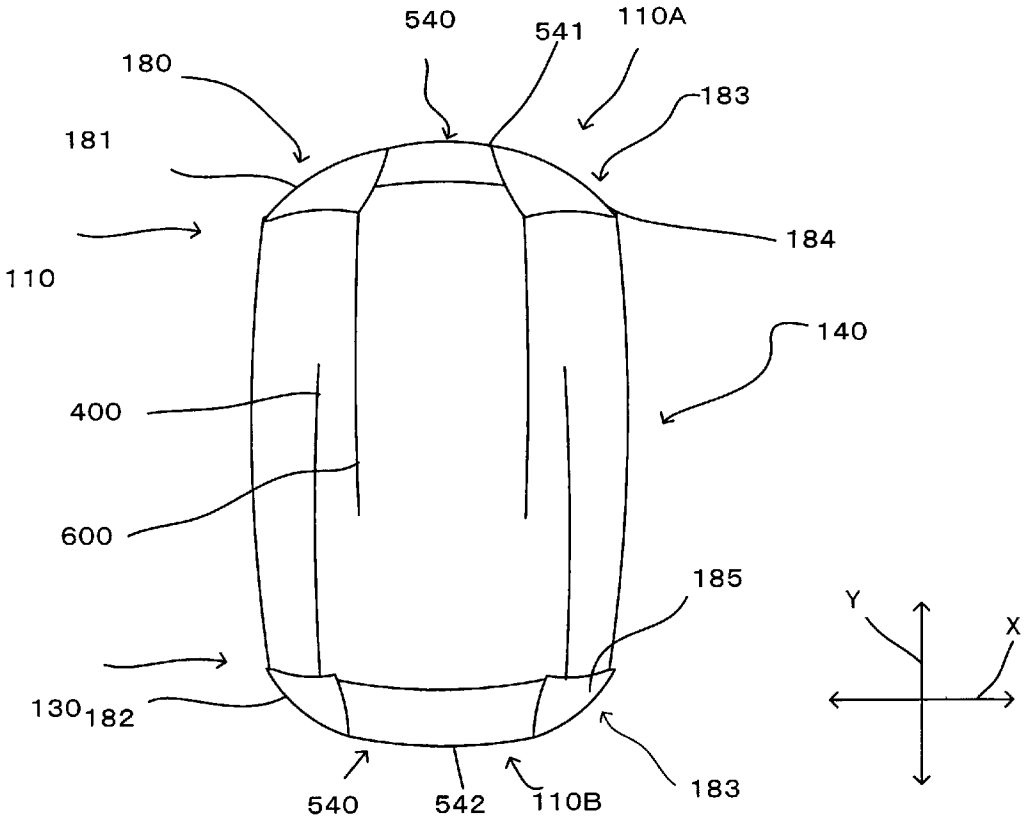
[図9]


800
910
100Z1
910
400
830
900
920
930
100Z2
X

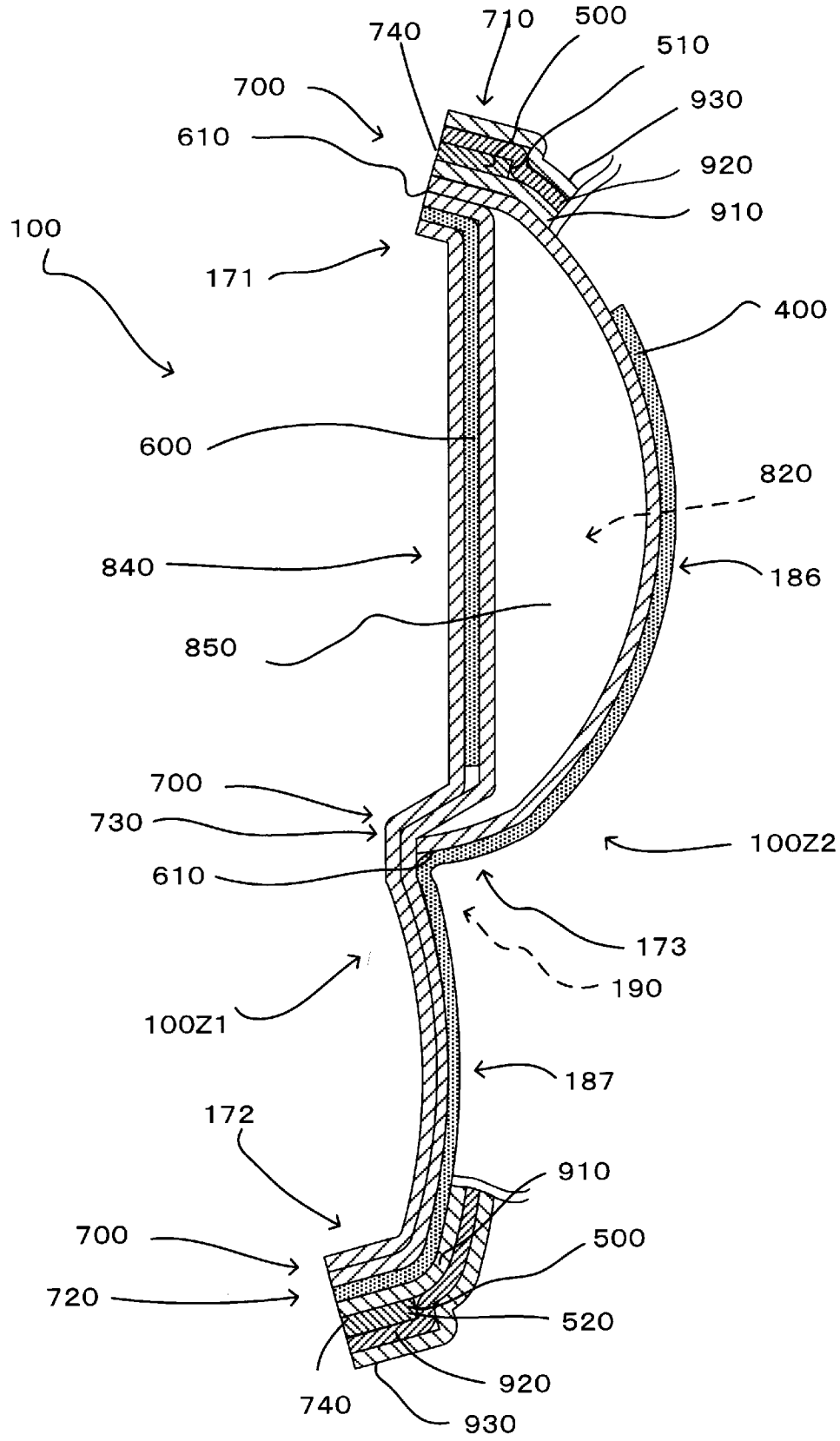
[図10]


F2
F2
110A
180
500
181
F1
F3
F3
F1
510
110
400
140
600
520
F1
F1
Y
X
130
F3
F3
182
180
500
F2
F2
130A

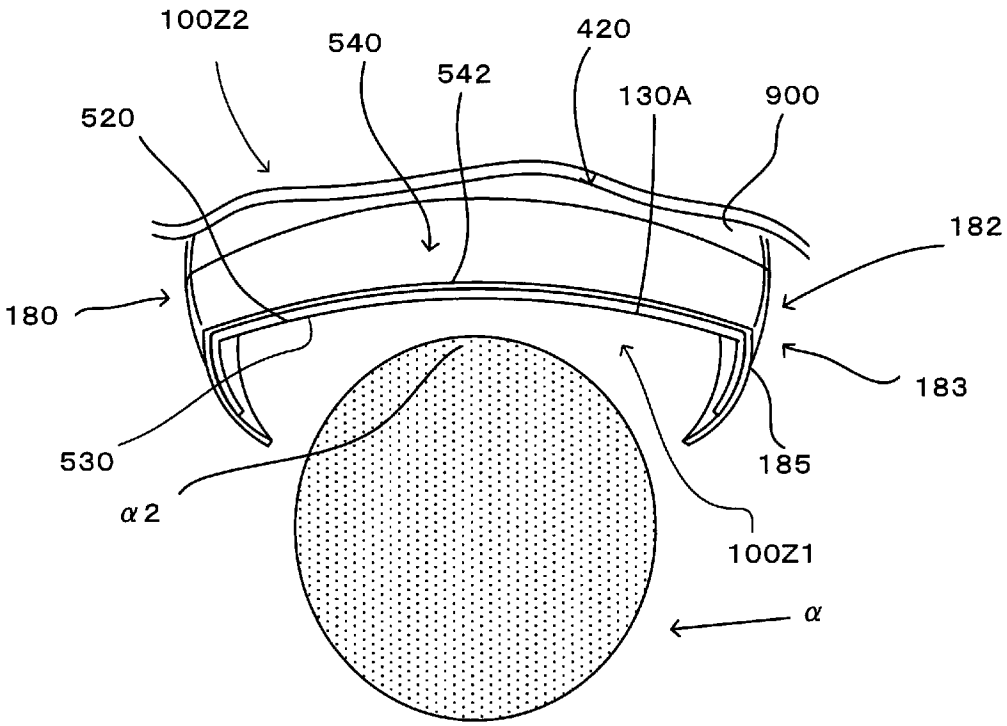
[図11]


540
541
110A
180
183
181
184
110
140
400
600
185
Y
X
130
182
183
540
542
110B

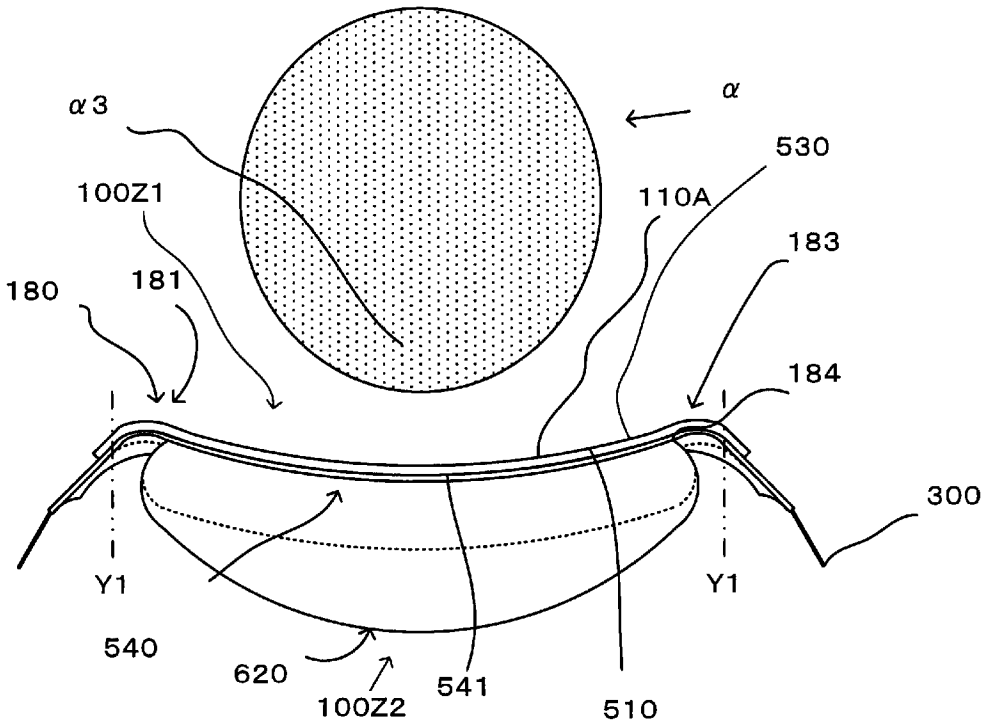
[図12]


740
710
500
510
700
930
610
920
910
100
171
400
600
820
840
186
850
700
730
100Z2
610
173
190
100Z1
187
172
910
700
500
720
520
920
740
930

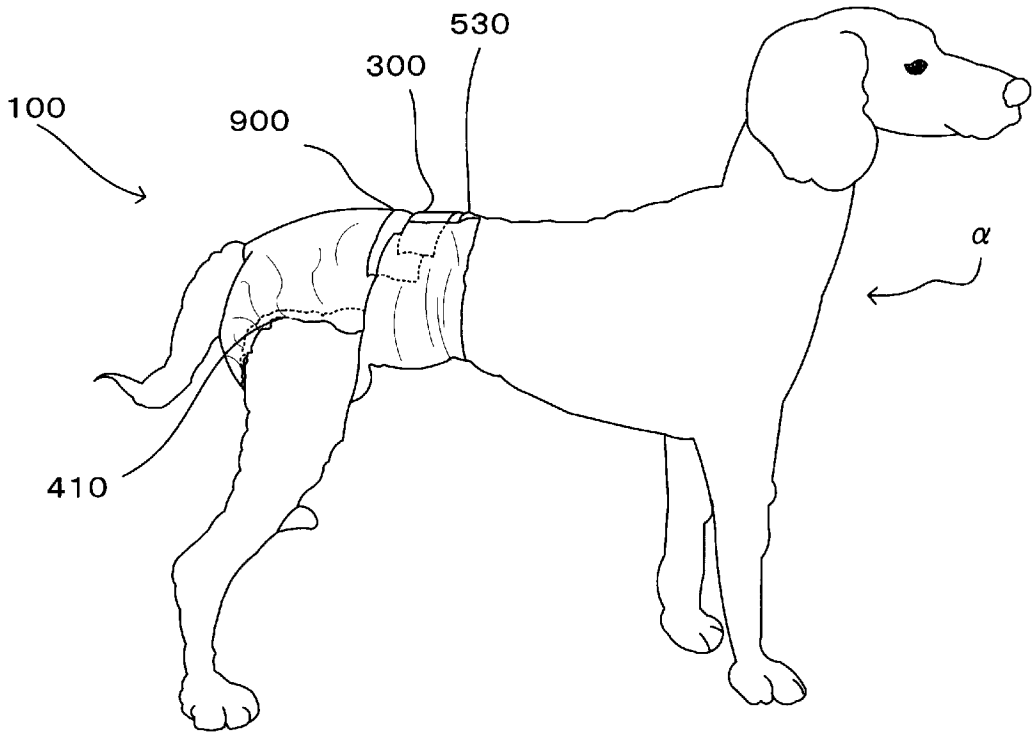
[図13]


100Z2
540
542
420
130A
900
520
182
180
183
530
185
α2
100Z1
α

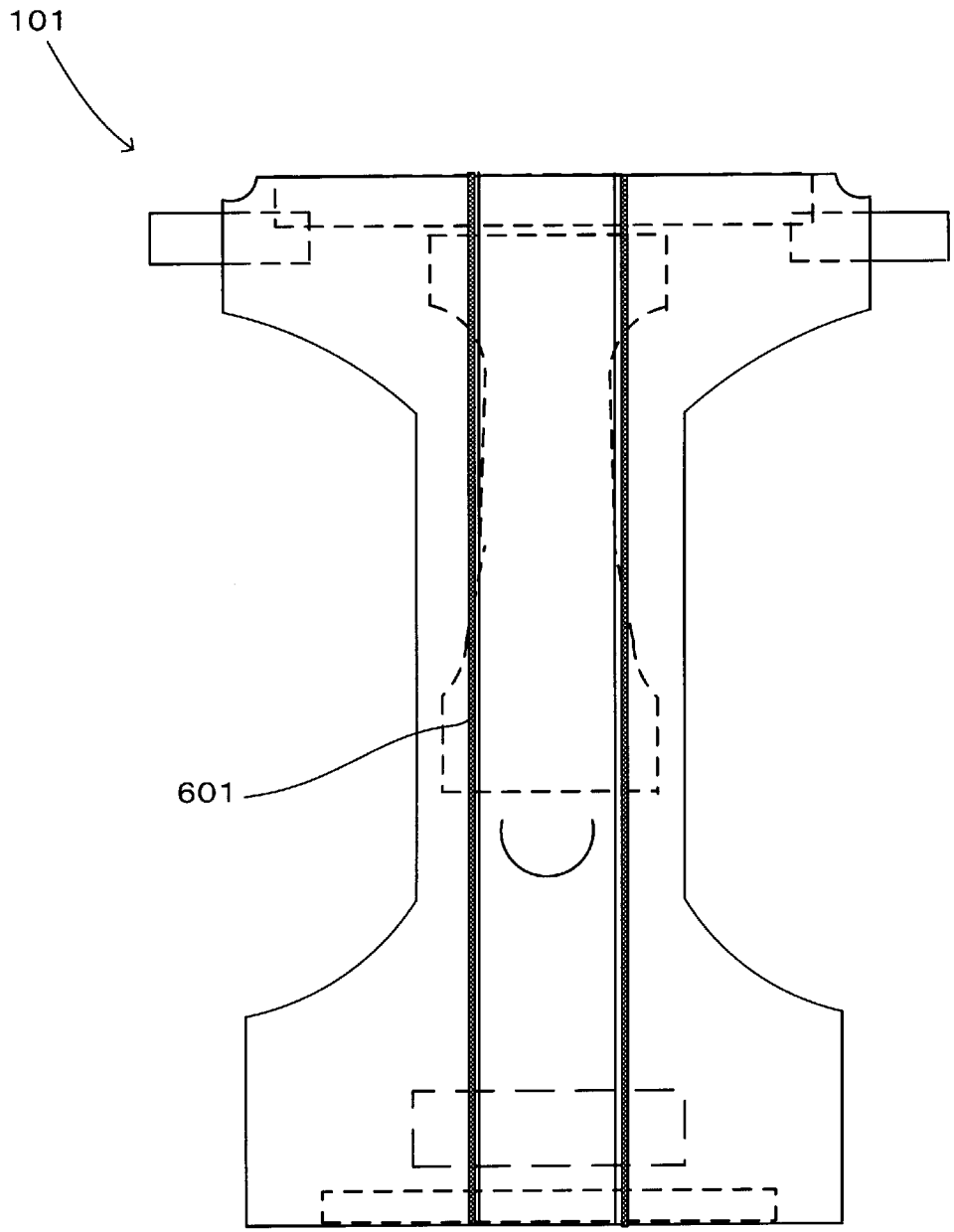
[図14]


α3
α
530
100Z1
110A
183
180
181
184
300
Y1
Y1
540
620
541
510
100Z2

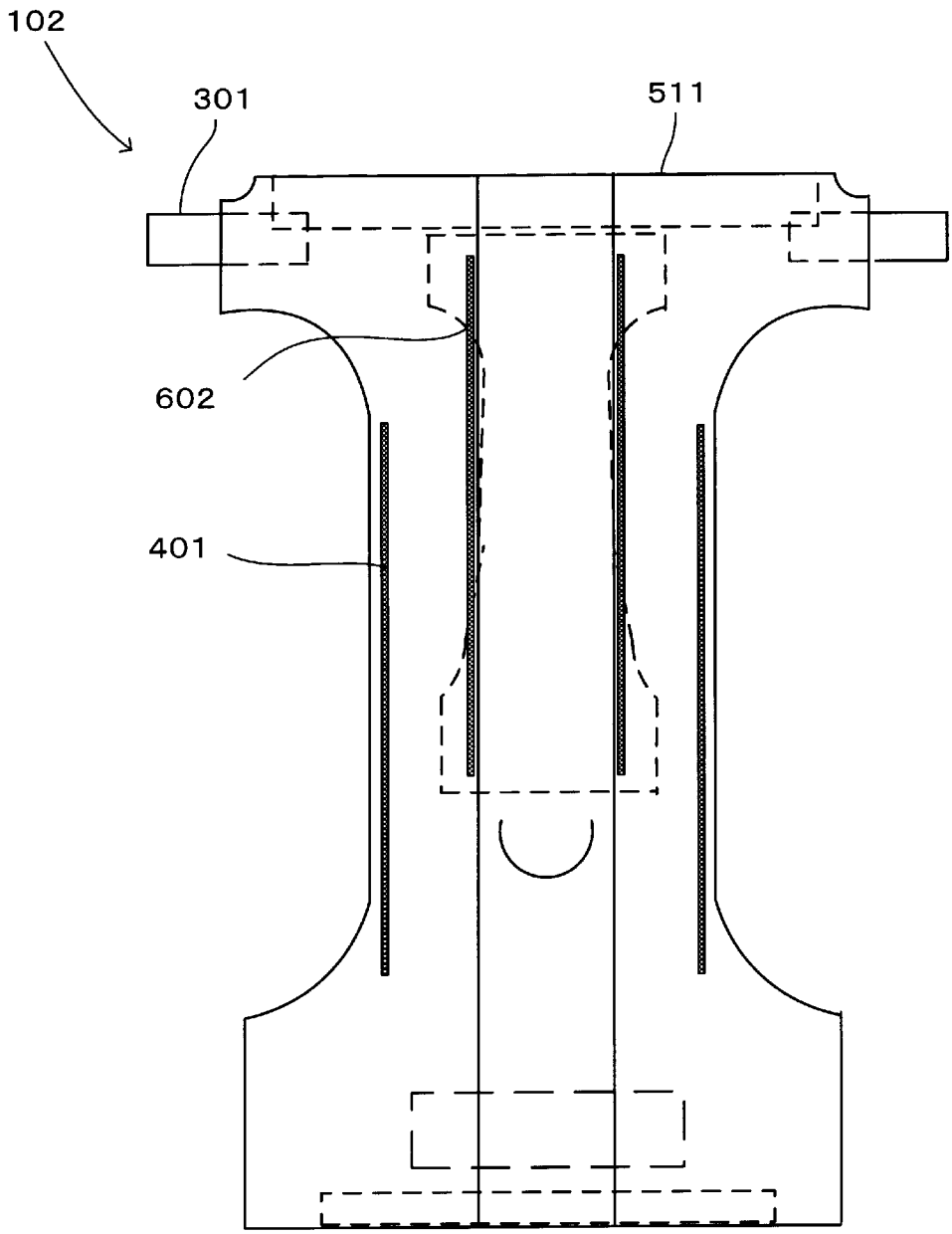
[図15]



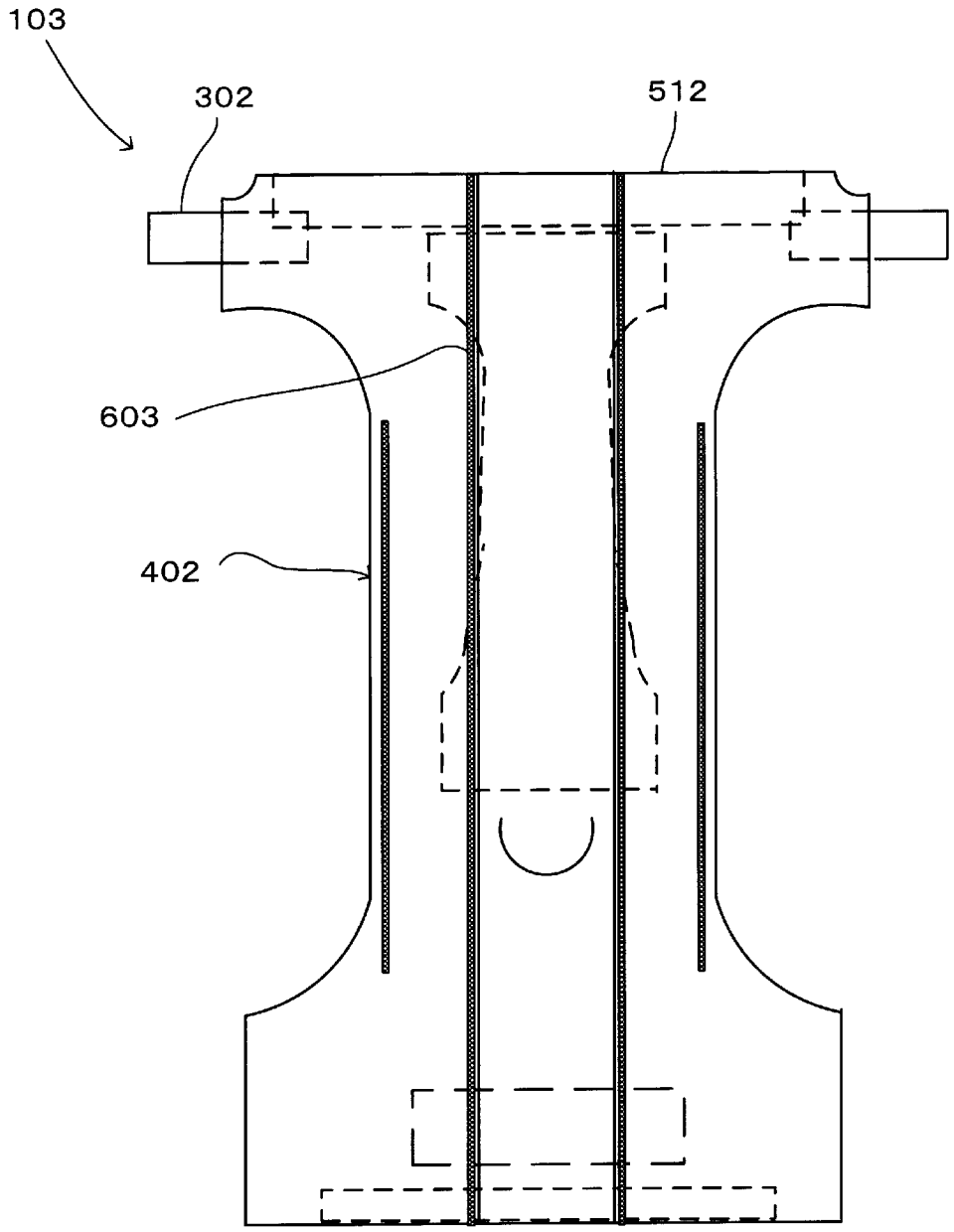
[図16]



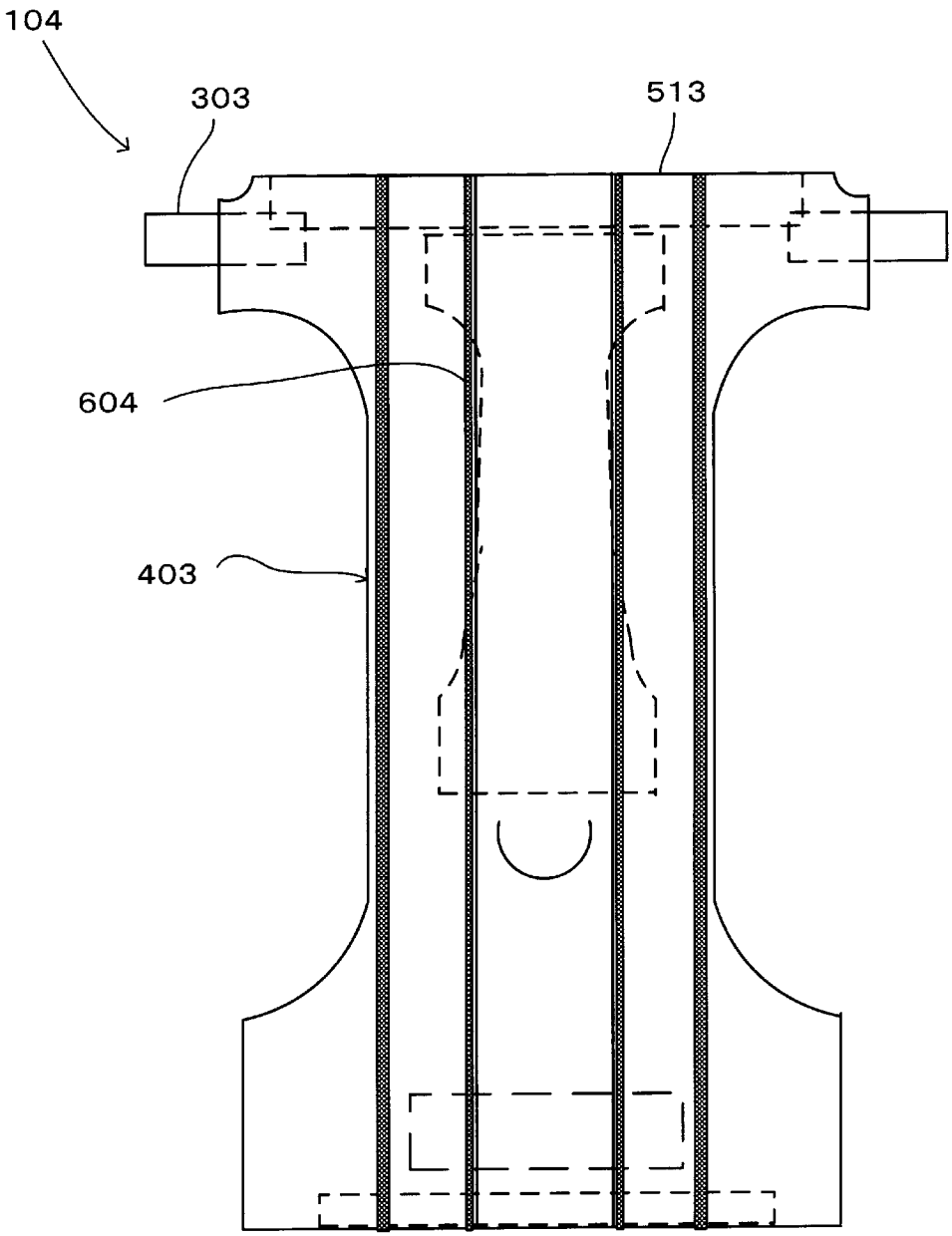
[図17]



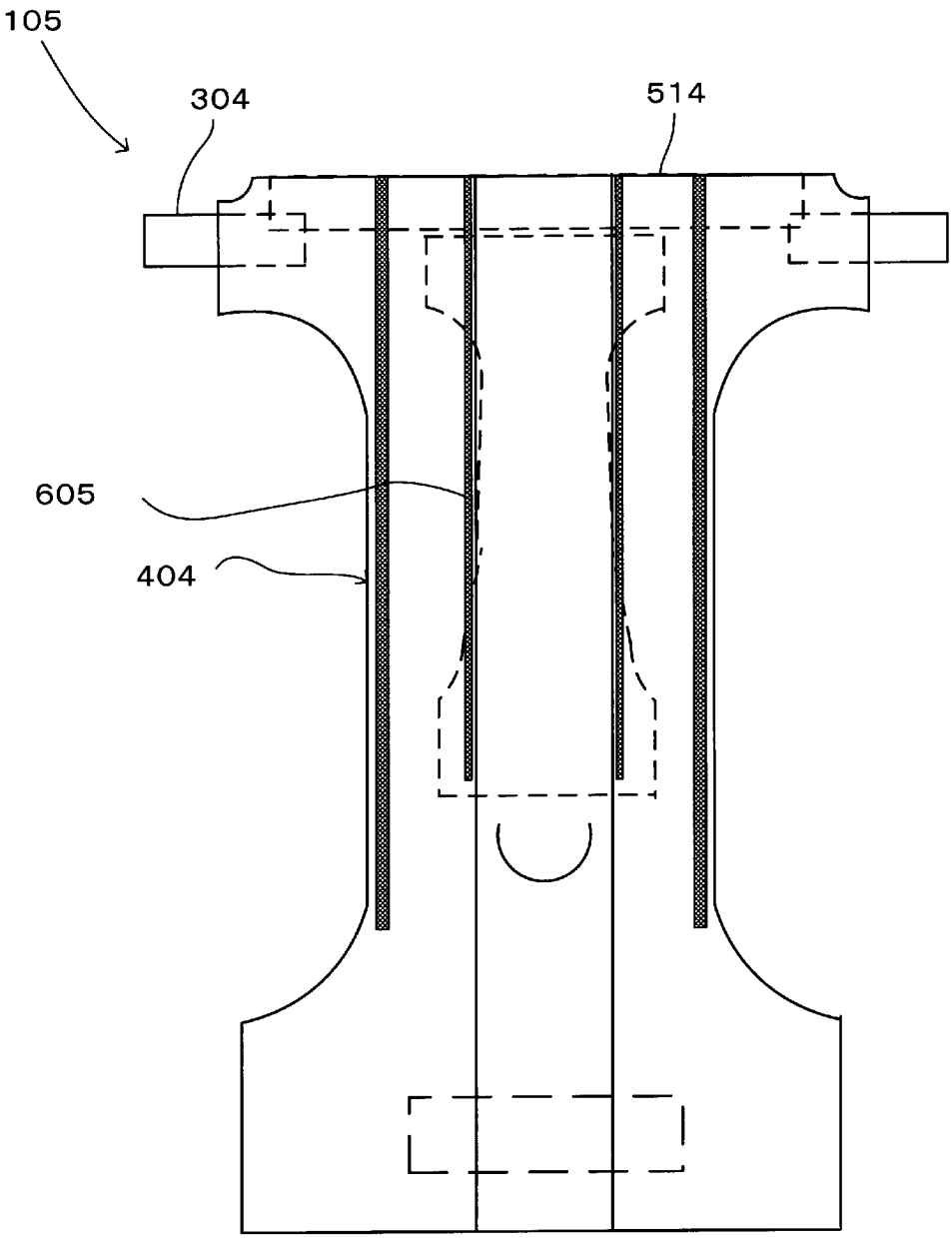
[図18]



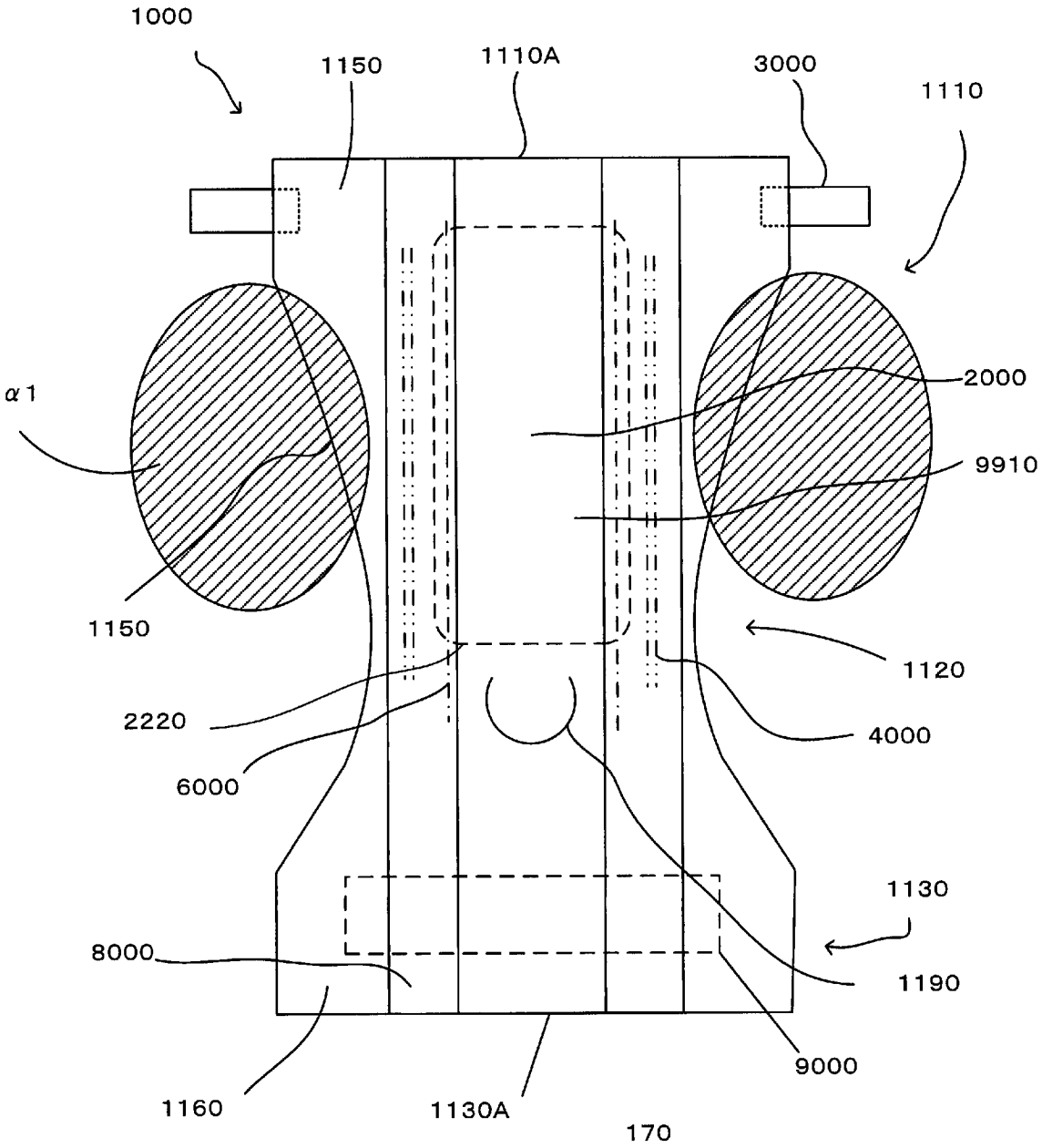
[図19]



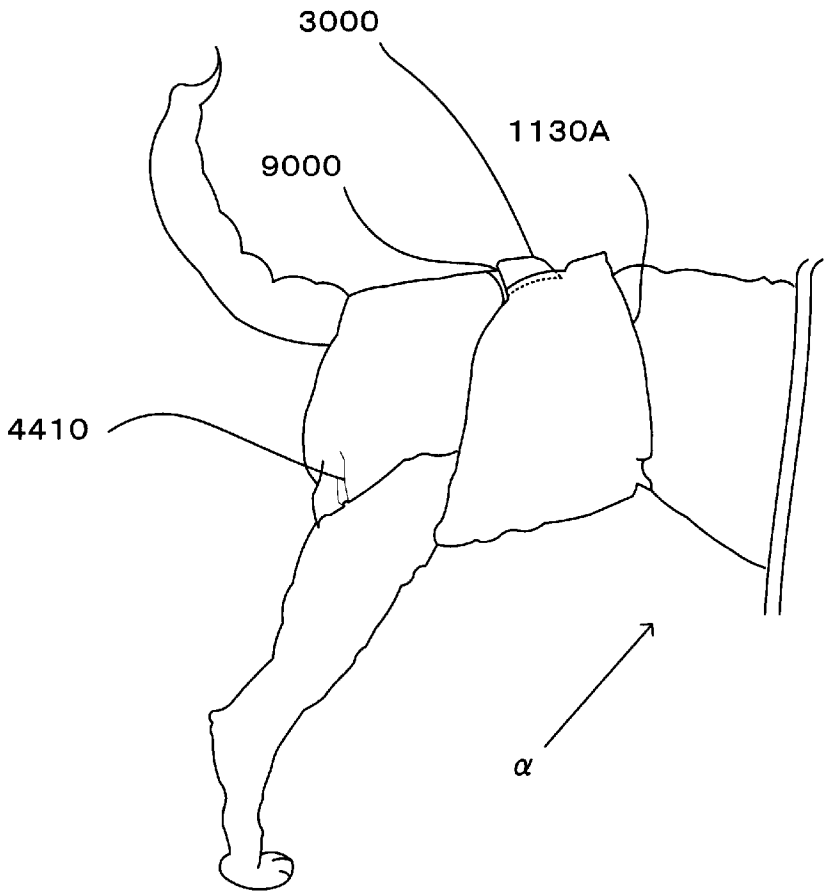
[図20]



[図21]


1000
1150
1110A
3000
1110
α1
2000
9910
1150
1120
2220
4000
6000
1130
8000
1190
9000
1160
1130A
170

[図22]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2013/081453

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A01K23/00(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A01K23/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2014
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2014	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2014

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 4445422 B2 (Uni-Charm Petcare Corp.), 07 April 2010 (07.04.2010), entire text; all drawings & US 2006/0217678 A1 & EP 1709870 A1	1-3
A	JP 2012-200206 A (Daio Paper Corp.), 22 October 2012 (22.10.2012), entire text; all drawings (Family: none)	1-3
A	JP 3147359 U (Ota Eizai Kabushiki Kaisha), 25 December 2008 (25.12.2008), entire text; all drawings (Family: none)	1-3

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
04 February, 2014 (04.02.14)	10 February, 2014 (10.02.14)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office Facsimile No.	Authorized officer Telephone No.

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１３／０８１４５３

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A01K23/00(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A01K23/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０１４年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０１４年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０１４年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
X	JP 4445422 B2 (ユニ・チャームペットケア株式会社) 2010.04.07, 全文, 全図 & US 2006/0217678 A1& EP 1709870 A1	１－３
A	JP 2012-200206 A (大王製紙株式会社) 2012.10.22, 全文, 全図（ファミリーなし）	１－３
A	JP 3147359 U (オオタ衛材株式会社) 2008.12.25, 全文, 全図（ファミリーなし）	１－３

☐　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー

「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献

「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
０４．０２．２０１４	１０．０２．２０１４

国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ）
郵便番号１００－８９１５
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

特許庁審査官（権限のある職員）　２Ｂ　９３１８
坂田　誠
電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３２３７